AICHI SCIENCE FESTIVAL 2011

あいちサイエンスフェスティバル2011

2011年10月1日(土)～11月6日(日)　愛知県全域で開催

http://aichi-science.jp/

実施報告書

「あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークの構築」事業報告書
独立行政法人 科学技術振興機構（JST）
科学コミュニケーション連携推進事業「地域ネットワーク支援」



国立大学法人名古屋大学

INDEX

INDEX ---- 2
あいちサイエンスフェスティバルとは ---- 3
あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク ---- 4
開催地マップ ---- 5
市民向け講演会　先端科学技術と社会 ---- 5
さかえサイエンストーク ---- 8
あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークによるイベント ---- 12
その他の企画参加団体イベント ---- 21
グランドクロージング企画 ---- 25
Pre イベント ---- 26
Post イベント ---- 28
広報（印刷物・WEB 等） ---- 32
サイエンスカフェ支援パッケージ ---- 34
参加者アンケート結果 ---- 35
来年度開催に向けてのスケジュール ---- 36
あいちサイエンスコミュニケーション・セミナー ---- 37
収支報告、緊急連絡連絡体制図 ---- 38
謝辞・ネットワーク委員会日程 ---- 39
ネットワーク関係者一覧 ---- 40

あいちサイエンスフェスティバル 2011

主　催：国立大学法人名古屋大学
共　催：愛知県、中日新聞社、豊橋市教育委員会、蒲郡市生命の海科学館
後　援：(株) ナノオプト・メディア、(株) ディスカヴァー・トゥエンティワン、(社) 日本航空宇宙工業会、蒲郡市教育委員会、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、(独) 科学技術振興機構
協　力：日本科学技術ジャーナリスト会議

※「あいちサイエンスフェスティバル 2011」は、独立行政法人科学技術振興機構の科学コミュニケーション連携推進事業「地域ネットワーク支援」(あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークの構築) の活動の一環として開催しました。

International Year of CHEMISTRY 2011

キューリー夫人がノーベル化学賞を受賞して 100 年目の 2011 年は「世界化学年」(International Year of Chemistry：IYC2011) と国際連合総会で定められました。「あいちサイエンスフェスティバル 2011」ではフェスティバル全体を世界化学年へ行事登録することで、世界化学年行事となることを希望する個別のサイエンスイベント参加企画でもロゴマークを活用できる仕組みを整えました。

JAPAN AEROSPACE 2012

2012 年 10 月 9 日（火）から 14 日（日）までポートメッセなごやと中部国際空港セントレアで「国際航空宇宙展 JAPAN AEROSPACE2012」(JA2012) が開催されます。「あいちサイエンスフェスティバル」は 2011 年より JA2012 とパートナーシップ事業となりました。互いのウェブサイトに告知バナーを掲載しての相互リンクを実施したほか、JA2012 プレ企画として（社）日本航空宇宙工業会が「さかえサイエンストーク」にゲストを派遣しました。

COP10 AICHI-NAGOYA つなげようCOP10の成果

2011 年から 2020 年までの 10 年間は，国際連合が定めた「国連生物多様性の 10 年」です。これは 2010 年の生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）で決められた愛知ターゲットの達成を促す取組です。これに伴い、2011 年 10 月に「国連生物多様性の 10 年記念行事 in あいち・なごや」が愛知県名古屋市で行われました。「あいちサイエンスフェスティバル 2011」からは、名古屋大学サイエンス・コミュニケーション推進室がサイエンスカフェ「名大カフェ」を開催提供して参加しました。

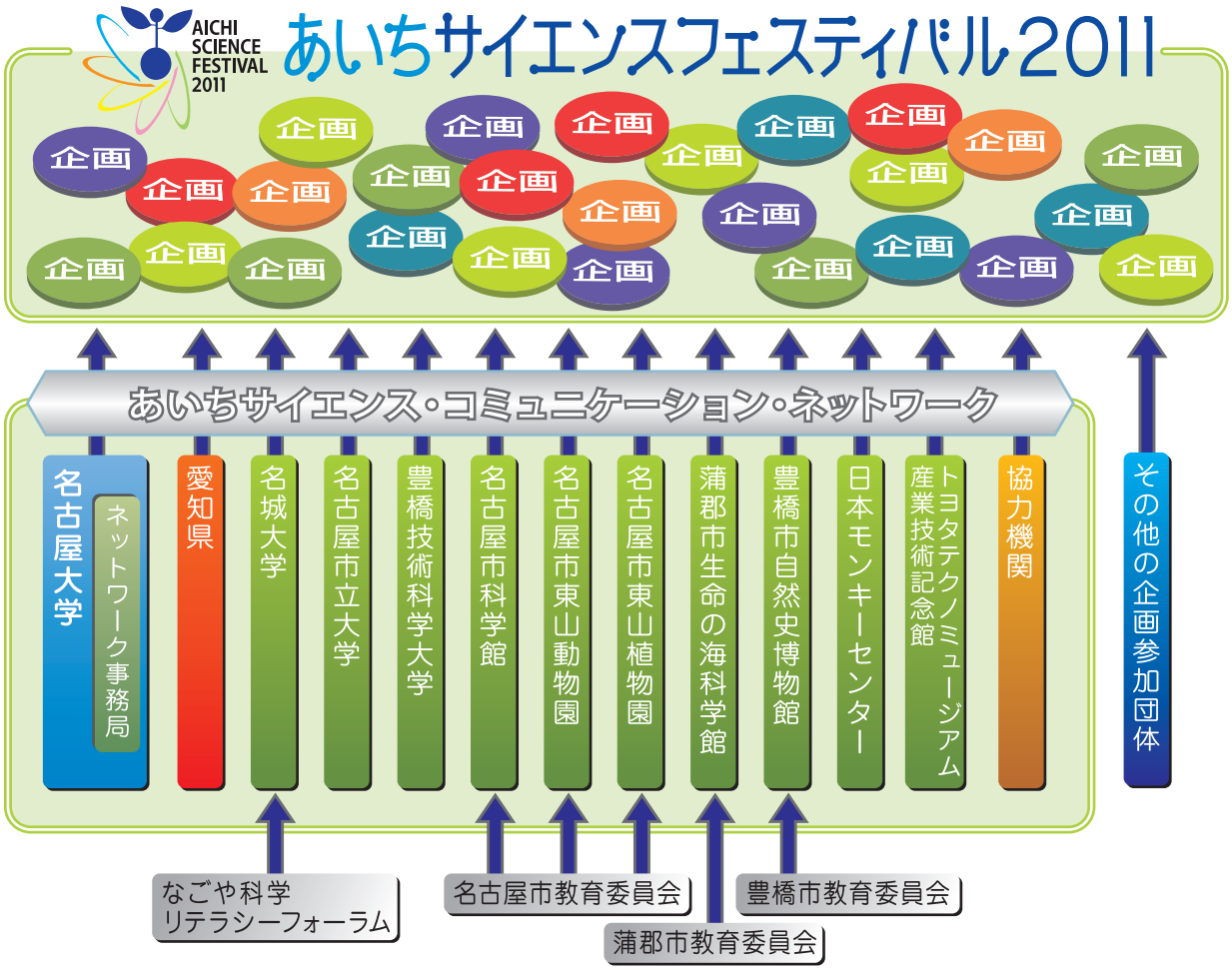
あいちサイエンスフェスティバルとは
AICHI SCIENCE FESTIVAL

「JST 地域ネットワーク支援」を受け、愛知県で 2011 年からスタートした秋のサイエンスイベント月間。トップサイエンティストによる週例講演会「先端科学技術と社会」と、名古屋の中心街・栄で平日に毎夜開催した気軽な科学イベント「さかえサイエンストーク」の二つを中心企画として名古屋大学が開催しました。その上で、県内 11 機関で形成した「あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク」の参加機関によるサイエンスイベントが集合。さらに、ウェブサイトから様々な企画参加団体によるサイエンスイベントを登録していただきました。

来場者数　112,867人
企画参加団体数　42
サイエンスイベント数　121

開催目的

ひろく愛知県内で、
サイエンスへの興味と関心を喚起し、
人々の交流と議論の場を生み出す。



あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク
AICHI SCIENCE COMMUNICATION NETWORK

名古屋大学は平成 23 年度より、独立行政法人科学技術振興機構（JST）「科学コミュニケーション連携推進事業＜地域ネットワーク支援＞」を受け、「あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク」の構築を進めている。本ネットワークには、県内の高等教育研究機関、科学館、科学系博物館、社会教育施設が参加。サイエンスイベント情報を収集し、ウェブで市民に対し効果的に発信することに取り組んでいる。現時点では、下記の 11 機関が参加している。

名古屋大学

愛知県

名城大学

国立大学法人 豊橋技術科学大学

名古屋市立大学

名古屋市科学館 NAGOYA CITY SCIENCE MUSEUM

東山動植物園

蒲郡市生命の海科学館

豊橋市自然史博物館

日本モンキーセンター

トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館

3ヵ年度の全体計画は、以下の４本柱で構成されている。

①ネットワーク構築と情報収集・発信拠点の設立。

②サイエンス・コミュニケーターの育成。

③サイエンスコミュニケーションの場と仕組みの提供。

④ロングテール型サイエンス・コミュニケーションモデルを開発。

開催地マップ
AICHI SCIENCE FESTIVAL EVENT MAP



市民向け講演会

先端科学技術と社会

私達の生活に密着するようになった科学技術。日本を代表する研究者が、社会と科学技術の関わりについてお話する週一回のシリーズ講演会です。科学技術の現状や課題について、聴講者の意見も聞きながら進めました。



名古屋大学 濵口道成 総長



名古屋大学理事 副総長 宮田隆司


大阪大学産業科学研究所 川合知二 特任教授

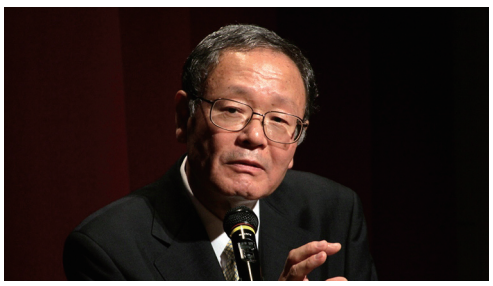
私たちの遺伝と健康を知るナノバイオデバイス

開催日時：2011 年 10 月 1 日（土）14:00-16:00
開催場所：東建ホール・丸の内（名古屋市中区丸の内 2 丁目 1 番 33 号）
講　　師：川合知二 氏（大阪大学産業科学研究所 特任教授）
講師略歴：日本を代表するナノバイオ研究のリーダーのひとり。
最先端研究開発支援（FIRST）プログラムを率い、新たなバイオセンサー実現をめざす。
冒頭挨拶：名古屋大学総長 濵口道成 氏、名古屋大学 理事 副総長 宮田隆司 氏

今年から始まる「あいちサイエンスフェスティバル」の記念すべきオープニングは、メイン企画の市民向け講演会「先端科学技術と社会」です。主催者の名古屋大学 濵口道成 総長（写真上段）からの力強い開幕宣言で 37 日間の会期をスタートしました。

引き続き、あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークを代表して、宮田隆司 名古屋大学理事・副総長（写真中段）が、フェスティバルとネットワークの概要を説明。日本で 3 例目となる地域科学祭を育てていく思いを語りました。

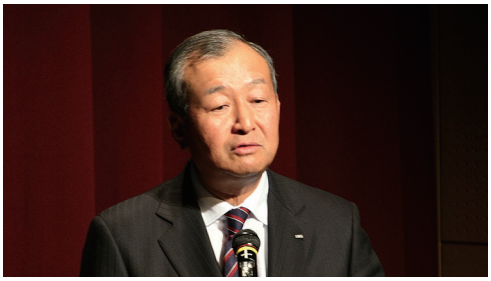
講演会の演者は、日本を代表するナノバイオ研究のリーダーのひとり、大阪大学産業科学研究所の川合知二特任教授（写真下段）。前半は、「ナノテクとは何か？」から先端の研究成果までを筋道立てて説明しました。後半は、ナノバイオ研究を進めるうえでの課題について、電子投票機で来場者とのコミュニケーションを展開。投票の結果をリアルタイムでスクリーンに投影し、様々な側面から今後の研究の進め方を全員で考えました。来場者数：90 名



高齢社会に向けた医療の転換

開催日時：2011 年 10 月 8 日（土）14:00-16:00
開催場所：東建ホール・丸の内（名古屋市中区丸の内 2 丁目 1 番 33 号）
講　　師：大島伸一 氏（独立行政法人国立長寿医療研究センター理事長・総長）
講師略歴：日本における腎移植の草分け的な存在。
名古屋大学医学部附属病院病院長を経て、2010 年より現職。
冒頭挨拶：愛知県産業労働部・技監 中野達夫 氏

大府市にある国立長寿医療研究センター理事長・総長の大島伸一先生による講演がスタート。「日本は高齢化が進行中の “高齢化社会” ではなく、すでに年齢構成が変化した“高齢社会” である」との言葉で始まりました。高齢者の医療は、「病気を治すだけではなく、病気とともに生きることが必要である」と説明。そのために必要な施策と実現への課題についても、豊富な資料で分かりやすく説明されました。来場者数：60 名



地球を、より賢く、よりスマートに - IT の可能性

開催日時：2011 年 10 月 11 日（水）18:30-20:30
開催場所：東建ホール・丸の内（名古屋市中区丸の内 2 丁目 1 番 33 号）
講　　師：橋本孝之 氏（日本アイ・ビー・エム株式会社・代表取締役社長）
　　久世和資 氏（同社・執行役員開発製造担当）
講師略歴：橋本孝之 氏　名古屋大学卒。日本 IBM の営業、ハードウェア・サービス等の要職を歴任。2009 年、社長に就任。
　　久世和資 氏　筑波大学卒。プログラミング言語、サービス・ソフトウェア担当を経て、2004 年に理事・東京研究所長。2009 年より現職。
冒頭挨拶：名古屋大学 副総長 教授 渡辺芳人 氏

IBM コーポレーション創立 100 周年記念事業として、同社の IT 事業戦略を紹介し、考える講演会を行いました。まず、米国で始まった IBM の歴史と日本法人の歩みを振り返り、続いてクイズ王に勝利したコンピューター「ワトソン」のプロジェクトと同社が世界で手掛けるスマーターシティ事業を紹介しました。社長と開発製造担当役員のコンビで、多角的な IBM のスマータープラネット戦略を解説。これらの技術が今後どのように活用されるかの期待を、電子投票機を使った双方向コミュニケーションで把握し、議論を深めました。来場者数：127 名



役立ちそうにない科学が実は役に立つ

開催日時：2011 年 10 月 22 日（土）14:00-16:00
開催場所：電気文化会館イベントホール（名古屋市中区栄 2 丁目 2 番 5 号）
講　　師：益川敏英 氏（名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 特別教授）
講師略歴：2008 年ノーベル物理学賞受賞。南部陽一郎 氏、小林誠 氏と共に日本人 3 人の共同受賞となった。授賞理由の「CP 対称性の破れの起源の発見」は「小林・益川理論」として知られる。
冒頭挨拶：蒲郡市生命の海科学館・館長 川上昭吾 氏
ファシリテーター：理化学研究所連携推進部・実用化コーディネーター 井門孝治 氏

ノーベル物理学賞を受賞した益川氏が、恩師の坂田昌一先生との思い出や科学史上の重要な発見における考え方や姿勢について講演。ファシリテーターとの対話を介して、会場との質疑応答を行いました。科学の営みのあり方から超光速粒子の発見報告まで、幅広いトピックを扱う講演会でした。来場者数：160 名



カーボンナノチューブ発見の背景

開催日時：2011 年 10 月 29 日（土）14:00-16:00
開催場所：電気文化会館イベントホール（名古屋市中区栄 2 丁目 2 番 5 号）
講　　師：飯島澄男 氏（名城大学大学院工学研究科教授）
講師略歴：カーボンナノチューブの発見で世界的に知られる。電子顕微鏡の専門家。産学官連携を推進。
冒頭挨拶：名城大学 学長 中根敏晴 氏

カーボンナノチューブを発見した飯島氏が、炭素由来物質の研究の歴史から講演を展開。研究に必要なエッセンスについて、自身の体験をもとに説明しました。サイエンスの専門家も一般市民もよくわかる、研究開発史と著名研究者との交流史が中心のお話でした。研究者の人生と科学技術の進歩は、つながっていることがよく分かる講演となりました。来場者数：85 名



想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心

開催日時：2011 年 11 月 5 日（土）14:00-16:00
開催場所：電気文化会館イベントホール（名古屋市中区栄 2 丁目 2 番 5 号）
講　　師：松沢哲郎 氏（京都大学霊長類研究所教授・所長）
講師略歴：チンパンジーが言葉を学習するアイ・プロジェクトなどで世界的に知られる。新著「想像するちから チンパンジーが教えてくれた人間の心」（岩波書店）が 2011 年科学ジャーナリスト賞を受賞。
冒頭挨拶：東山総合公園・次長 小林弘志 氏

松沢氏の著書「想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心」が科学ジャーナリスト賞を受賞した記念講演として開催しました。日本科学技術ジャーナリスト会議理事の柴田鉄治氏による同賞選考経過の説明の後、松沢氏が講演。京都大学霊長類研究所を中心とした類人猿の研究の歴史から、最新の研究成果までを様々なトピックを交えてわかりやすく説明しました。類人猿の生息環境を守るための植林活動とそのサポート組織なども紹介され、いかに研究と環境保護活動をリンクさせるかの示唆に富んだ講演会となりました。来場者数：93 名

SAKAE Science Talk
さかえサイエンストーク

科学技術をはじめ、ものづくりやカルチャーまで、広くサイエンスの話題を取り上げた専門家との交流イベント。あいちサイエンスフェスティバルの期間中、平日に毎夜開催しました。舞台は、名古屋の中心栄地区にあるイベントスペース、カフェ、書店。各分野の若手から中堅がゲストスピーカーとなり、参加者とのトークに花を咲かせました。双方向コミュニケーションに、電子投票機が大活躍するなどの挑戦的試みも行なっています。

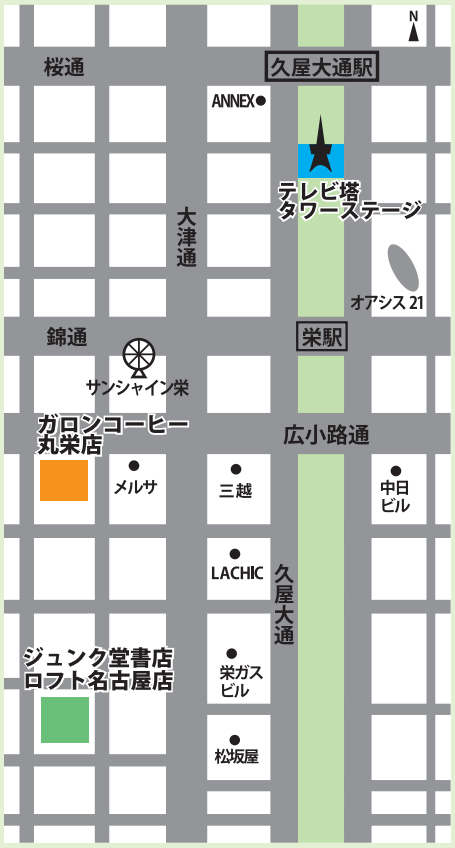
※ここに掲載されているイベントは、ASF web データベースに報告された内容に基づいております。詳しい開催報告は、各 web へ。

【開催場所】

名古屋テレビ塔
名古屋市中区錦 3-6-15 テレビ塔 4F タワーステージ
月曜日 :IT・情報
水曜日 : 工学・ものづくり・地域資源

ガロンコーヒー丸栄店
名古屋市中区栄 3-3-1 丸栄百貨店 B1F
木曜日 : 生物・医学・食品

ジュンク堂書店ロフト名古屋店
名古屋市中区栄 3-18-1 ナディアパーク 7F ブックサロン
火曜日 : 化学・環境
金曜日 : 物理・天文



【各回共通事項】

◎開催時間 18:30-20:00(18:00 開場、途中入退場可)
◎入場無料
(カフェサービスがある場合は、実費でドリンク等を注文)
◎先着 30 名程度

第 10 回<10 月 3 日 (月) > 名古屋テレビ塔

http://aichi-science.jp/events/single/210

ミステリアスな能面を科学する

科学技術振興機構 ERATO 西村律子 氏



科学技術振興機構 ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクトの西村律子氏は、能面がどのようにして無限表情（あらあゆる表情）を見せるのか、その調査手法から結果までを紹介した。
途中、能の動画を見せたり、能面を映しながら囃子を流すなどして、実際に能面から受けるイメージを参加者と共有しながら話を進めました。

第 11 回<10 月 4 日 (火) > ジュンク堂書店ロフト名古屋店

http://aichi-science.jp/events/single/225

卵も肉もおいしい「岡崎おうはん」の開発

家畜改良センター岡崎牧場 山本力也 氏



鶏の生卵を持参して会場に現れた、家畜改良センター岡崎牧場の山本力也氏。「『岡崎おうはん』ってなんですか？　答えは、にわとりです」一枚目のスライドで最大の疑問が解決。
他にも鶏の改良方法や、改良を行う意味をイラストで端的に説明。岡崎おうはんを学校給食に取り入れたいと、終盤は今後の意気込みを語りました。

第 12 回<10 月 5 日（水）>

名古屋テレビ塔

http://aichi-science.jp/events/single/226

地域活性化と国際観光 –あいちの魅力–

名古屋大学 新美 達也、鈴木尚彦 氏



名古屋大学 産学官連携推進本部 地域資源調査員の新美達也氏と鈴木尚彦氏が観光をテーマにサイエンストークを行った。前半は鈴木氏によるトークで、訪日外国人向けに開発した愛知県内の地域資源を PR する観光コースを写真と動画で紹介した。後半はその評価・分析結果を新美氏が報告しトークは終了しました。

第 13 回<10 月 6 日（木）>

ガロンコーヒー丸栄店

http://aichi-science.jp/events/single/224

食糧からバイオ燃料、そして放射性物質の除染まで –微細藻類への期待–

マイクロアルジェコーポレーション株式会社 竹中裕行 氏



放射性セシウムを吸収する藻、イシクラゲ!?　トーク前日の新聞に掲載されたネタを持って登場したのは、マイクロアルジェコーポレーション株式会社社長 竹中裕行氏。食糧や化粧品などへの微細藻類の活用事例を紹介するも、参加者の一番の関心事はイシクラゲ。トーク後もその回収方法や処理方法などに質問が集中しました。

第 14 回<10 月 7 日（金）>

ジュンク堂書店ロフト名古屋店

http://aichi-science.jp/events/single/223

SF みたいな生活を実現する先進プラズマテクノロジー

名古屋産業振興公社プラズマ技術産業応用センター
青木猛 氏



ゲスト講師は名古屋産業振興公社プラズマ技術産業応用センターの青木猛氏。気体にさらに熱を加えると、原子から電子が飛び出してバラバラに……　この状態がプラズマだと青木氏は説明した。コンタクトレンズの表面処理にも使われるなど、プラズマ技術の身近な応用例から近年注目されているバイオ・医療分野での利用を紹介しました。

第 15 回<10 月 11 日（火）>

ジュンク堂書店ロフト名古屋店

http://aichi-science.jp/events/single/222

カメって本当に長生き？ 〜カメたちの不思議な生活〜

愛知学泉大学 矢部隆 氏



愛知学泉大学 現代マネジメント学部の矢部隆氏を招いてのサイエンストーク。カメの甲羅に穴をあけ、その穴の位置と数を変えることで野生のカメを識別し、調査をしているという。そこから判明したカメの寿命は 50 歳!?　カメの進化の歴史や甲羅の仕組み、本題の寿命についてまで、終始楽しそうに語りました。

第 16 回<10 月 12 日（水）>

名古屋テレビ塔

http://aichi-science.jp/events/single/221

花の香りってこんなに変わるの !? あま〜い香りのちっちゃなキク「アロマム」の誕生とその力 !

中部電力株式会社 津田その子 氏



たくさんのキクに囲まれて開催することとなった今回のサイエンストーク。ゲスト講師は中部電力株式会社の津田その子氏。広島大学や日本メナード化粧品株式会社などと協力して開発したキク「アロマム」をテーマに、参加者は開発話や分析結果を聞くだけでなく、実際に普通のキクとアロマムを嗅ぎ比べながら香りの違いを確かめました。

第 17 回<10 月 13 日（木）>

ガロンコーヒー丸栄店

http://aichi-science.jp/events/single/220

色を見て考える脳のしくみ

豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所
鯉田孝和 氏



豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所の鯉田孝和氏を迎えてサイエンストークを実施。サルを含め多くの哺乳類は 2 原色で世界を見ており、3 原色を識別できる人間はむしろ特殊と説明。赤みを識別できる三色性はヒトにとってはパートナーの健康状態を判断する指標になったと考え、色はフェロモンかもと付け加えました。

第 18 回<10 月 14 日（金）> ジュンク堂書店ロフト名古屋店

http://aichi-science.jp/events/single/219

もう一つのガラパゴス発見！ 静電気と異物の世界　小さなベンチャー世界を変える

株式会社 TRINC 高柳真 氏



地域の優れたものづくり技術の継承と人材育成を目的に創設された「浜松ものづくりマイスター」。講師は、これに認定された株式会社 TRINC の社長高柳真氏。いくらクリーンルームから埃を除いても、そこにはホコリ高き人間様がいると冗談を交えながら、埃を減らすのではなく製品に付着させない技術について熱く語りました。

第 19 回<10 月 17 日（月）> 名古屋テレビ塔

http://aichi-science.jp/events/single/230

世界のスマートシティプロジェクトとその未来

日本アイ・ビー・エム株式会社 岡村久和 氏



日本アイ・ビー・エム株式会社の岡村久和氏が、さかえサイエンストークに登場。日本と海外では「スマートシティー」と「スマーターシティー」の認識が違うことを指摘し、2つの言葉の違いを分かりやすく説明した。「スマーターシティー」は決してハイテクなものではないと強調し、プロジェクトの事例を紹介しました。

第 20 回<10 月 18 日（火）> ジュンク堂書店ロフト名古屋店

http://aichi-science.jp/events/single/218

身近な微生物の驚くべき能力とその利用を目指す微生物研究の最前線

名古屋大学 堀克敏 氏



要所々々で質問を投げかけながら参加者をトークに巻き込んでいった名古屋大学 大学院工学研究科の堀克敏氏。前半は微生物とは何なのか、その特徴や構造を紹介。後半はバイオレメディエーションという微生物による汚染物質の除去について説明、最後は微生物の粘着性を応用する最先端研究の話題で締めくくりました。

第 21 回<10 月 19 日（水）> 名古屋テレビ塔

http://aichi-science.jp/events/single/217

デザインで街を科学しよう！ 芸術と工学の融合へ

名古屋工業大学 伊藤孝紀 氏



「300 人位いる感じで盛り上がっていきます！」と、冗談を飛ばしながら始まった伊藤孝紀氏（名古屋工業大学 大学院）のトーク。デザインで街を科学する研究とは、理論的に調査・分析して必然性のある形で街を演出していくこと。加えて数値化できないハッピネスもデザインで付加していくことが重要だと伊藤氏は語りました。

第 22 回<10 月 20 日（木）> ガロンコーヒー丸栄店

http://aichi-science.jp/events/single/216

機能性を持たせた新しい食品の開発

健康生活素材株式会社 高田幸宏 氏



健康生活素材株式会社で開発された「黒大豆のピューレ」や「12 種類のハーブを使用したお茶」、「フィッシュ・コラーゲン」の試食と共に、社長の高田幸宏氏がサプリメントの話題を中心にサイエンストークを実施。開発のコンセプトは食品にサプリメントの機能を持たせた“新しい食品”。自慢の商品を熱心にアピールしました。

第 23 回<10 月 21 日（金）> ジュンク堂書店ロフト名古屋店

http://aichi-science.jp/events/single/215

ヒマラヤ山脈の下が流れてから固まるまで

名古屋大学 今山武志 氏



ゲスト講師は名古屋大学 年代測定総合研究センターの今山武志氏。極東ネパールから採取した岩石を分析して分かった、ヒマラヤ山脈の知られざる形成過程を紹介。「インド亜大陸は毎年どれくらい北へ動いているでしょうか？（答：5cm）」など、トークの合間にクイズを数回はさみ込み、会場を和ませながら話を進めました。

第 24 回<10 月 24 日（月）>

名古屋テレビ塔

http://aichi-science.jp/events/single/228

アナログ放送終了後の電波を利用した新サービス

マスプロ電工株式会社 小沢寿行 氏



マスプロ電工株式会社の小沢寿行氏が電波をテーマに登場し、会場となったテレビ塔ならではのトークとなった。「電離層」、「スポラディックＥ層」と普段聞きなれない言葉が出てきても、その都度イラスト付きの解説が入り参加者は納得。後半はデジタルラジオや車車間通信システムなど、電波の新たな活用例に期待を寄せました。

第 25 回<10 月 25 日（火）>

ジュンク堂書店ロフト名古屋店

http://aichi-science.jp/events/single/214

循環型社会に貢献する自動車用内装繊維製品へのリサイクル PET の利用

株式会社 高木化学研究所 永谷裕介 氏



ゲスト講師は、創業以来リサイクル事業を展開している株式会社高木化学研究所の永谷裕介氏。粉砕されたペットボトルやそこから作られた繊維などを参加者に回しながら、リサイクルの過程を丁寧に語った。参加者からは「自動車用の内装マットはペットボトル何個で出来るのか？（答：約 60 個）」などの質問が出ていました。

第 26 回<10 月 26 日（水）>

名古屋テレビ塔

http://aichi-science.jp/events/single/213

ナノバイオデバイスが拓く“健幸”社会 人の遺伝を知り健康を守る最新科学技術

名古屋大学 馬場嘉信 氏



暗闇の中、参加者が目を凝らす。手元にはマイクロチップ。「チップには白い線が 1 本見えますが、実際には 50 マイクロメートルの溝が 10 本あります。」と名古屋大学 大学院工学研究科の馬場嘉信氏は語った。このマイクロチップとミドリムシを活用して、がん細胞の分離が出来るという。驚きながら医療への応用を期待しました。

第 27 回<10 月 27 日（木）>

ガロンコーヒー丸栄店

http://aichi-science.jp/events/single/212

米焼酎でカンボジアの地域開発を！ –研究と国際協力の相乗効果を目指して–

名古屋大学 伊藤香純 氏



名古屋大学 農学国際教育協力研究センターの伊藤香純氏を招いて、お酒を飲みながらのサイエンストークを実施。カンボジアでなぜ米焼酎を開発することになったのか？　現地の社会的な現状や課題からトークは始まり、焼酎の開発手法までが紹介された。参加者 15 名との追体験型サイエンス・コミュニケーション活動となりました。

第 28 回<10 月 28 日（金）>

ジュンク堂書店ロフト名古屋店

http://aichi-science.jp/events/single/211

氷を掘る

公立はこだて未来大学 金森昌作 氏



はこだて国際科学祭とのコンテンツ交換として開催した第 28 回さかえサイエンストーク。ゲスト講師は、公立はこだて未来大学の特別研究員でもあり、サイエンス・サポート函館のコーディネーターでもある金森昌作氏。会場には 20 名が集まり、様々な「氷を掘る」現場の写真をみながら金森氏のトークを楽しみました。

第 29 回<11 月 1 日（火）>

ジュンク堂書店ロフト名古屋店

http://aichi-science.jp/events/single/326

漢方の科学 —現代における漢方の役割とその可能性—

名古屋市立大学 牧野利明 氏



会期中、最後の開催となったさかえサイエンストーク。ゲスト講師は名古屋市立大学 大学院薬学研究科の牧野利明氏。会場に着くなりカバンの中から約 70 種類の生薬を取り出しテーブルに並べ出した。参加者は牧野氏に質問を投げかけながら、それらを見たり、香りをかいだり、食べたりと、実物の生薬を存分に味わいました。

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークによるイベント
AICHI SCIENCE COMMUNICATION NETWORK EVENT

ネットワークに機関参加している 11 機関によるイベントの開催レポートをご紹介します。

ネットワークに機関参加している 11 機関によるイベントの開催レポートをご紹介します。
※ここに掲載されているイベントは、ASF web データベースに報告された内容に基づいております。情報登録が不十分な場合、実施されたイベントであっても正しく記載されていない場合があります。ご了承ください。



5. キリンビール名古屋工場
愛知県清須市寺野花笠 100

1. 7th cafe（セブンス カフェ）
名古屋市中区栄 3-18-1 ナディアセンタービル 7F

2. ダイニング・カフェ アルテーゴ ドゥ ショウズ
名古屋市中区錦 3-5-4 アネックス 2F

3. ウィル愛知（愛知県女性総合センター）
名古屋市東区上竪杉町 1

4. おとうふ工房いしかわ
愛知県高浜市豊田町 1 丁目 204-21

6. クッキングサロン栄
名古屋市中区栄3-15-33

7. 愛知県芸術文化センター
名古屋市東区東桜 1-13-2

8. 蒲郡市生命の海科学館
愛知県蒲郡市港町 17-17

9. 丸栄百貨店
名古屋市中区栄三丁目 3-1

10. 産業技術記念館
名古屋市西区則武新町4-1-35

11. 守山生涯学習センター
名古屋市守山区守山 3-2-6

12. 日本モンキーセンター
愛知県犬山市大字犬山官林 26 番地

13. 豊橋市自然史博物館
愛知県豊橋市大岩町大穴 1-238

14. 名古屋ルーセントタワー
名古屋市西区牛島町 6-1

15. 名古屋市科学館
名古屋市中区栄 2-17-1 白川公園内

16. 名古屋市東山動植物園
名古屋市千種区東山元町 3-70

17. 名古屋大学
名古屋市千種区不老町

1. 豊田自働織布工場 100 周年特別展 「トヨタグループの源流　–この地から–」

産業技術記念館 10

開催日時
2011 年 9 月 17 ～ 12 月 4 日

開催場所
産業技術記念館 繊維機械館内特設会場



この特別展では、波乱に満ちた豊田佐吉の発明人生を実物展示やパネルなどで紹介しながら、今もトヨタグループに受け継がれている「研究と創造の精神」と「モノづくり」の源流を理解していただきました。また、機織り体験コーナーや、ふだんは立ち入れない場所を紹介する「なるほどツアー」によって、楽しみながら理解を深めていただきました。特別展入場者数：25,174 名

2. 中継・サテライトイベント 講演会「先端科学技術と社会 ～私たちの遺伝と健康を知るナノバイオデバイス～」

開催日時
2011 年 10 月 1 日
13:45-16:30

科学祭 8

開催場所
蒲郡市生命の海科学館



サテライト講師の松浦俊彦氏は、本会場講師の川合知二氏の研究室出身です。名古屋市で開催される川合氏の講演の見どころを事前に紹介し、インターネット中継を参加者と一緒に視聴しました。中継の後、当館学芸員の山中氏がファシリテーターを務め、サテライト会場独自の質疑応答を展開しました。参加者数：15 名

3. アニマルトーク・リレー

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 1, 2, 8, 9,10,15,16,22,23,29,30 日
11 月 3,5,6 日
13:30-15:15
開催場所
名古屋市東山動物園



ゾウ、アミメキリン、コアラを始め、東山動物園で飼育展示している様々な動物について飼育担当が、その生態や個体の特徴と生息環境や環境問題についてトークを行いました。実際の動物を目の前にして、飼育担当から直接話の聞ける貴重な機会のため、毎回たくさんの聴衆で賑わいました。参加者数：約 500 名

4. 野はらで生きもの探検

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 1 日
10:30-11:30 / 13:30-14:30
開催場所
東山植物園ビオトープ



「ビオトープ・ネットワーク中部」の皆さんのサポートの下、東山植物園の「野はらビオトープ」を中心に、園内で暮らす生きものたちを観察しました。子供も大人も夢中になって、原っぱや池の中を探索。バッタやヤゴなどの生きものが見つかるたびに歓声があがっていました。
参加者数：30 名（2 回実施合計）

5. 電子顕微鏡公開日「昆虫をみる」

豊橋市自然史博物館 13

開催日時
2011 年 10 月 1 日
14:00-14:30
開催場所
豊橋市自然史博物館



毎月第一土曜日は、電子顕微鏡の公開日。今回のテーマは昆虫です。来館者のみなさまに、電子顕微鏡でいろいろなものを見ていただきました。材料は、蝶のハネと蚊の頭部。CCD カメラと比べながら観察しました。普段目にすることのない細かい構造が写し出されるたびに、驚きの声があがり、画面に見入っていました。参加者数：40 名

6. ボランティアガイドツアー

豊橋市自然史博物館 13

開催日時
2011 年 10 月 1,15 日
13：30-14：00, 14：30-15：00
開催場所
豊橋市自然史博物館



博物館ボランティアが実物標本にも触れながら、わかりやすく展示を解説しました。
参加者数：それぞれ 48, 32 名

7. 超伝導ってなんだろう?

蒲郡市生命の海科学館 8

開催日時
2011 年 10 月 2 日
14:00-15:30
開催場所
蒲郡市生命の海科学館 実験工作室



ネオジム磁石、超伝導体と液体窒素を使って、超伝導の不思議な世界を体験。電気と磁気の性質を復習しながら、保護者と一緒に実験を進めました。マイスナー効果やピン止め効果を目の当たりにして、大人も子供も大興奮。磁石の近づけ方を変えるなど、いろいろな工夫をして、参加者全員が実験を楽しみました。参加者数：9 名

8. ワークショップ「空きビンをつかったスノードームづくり」

蒲郡市生命の海科学館 8

開催日時
2011 年 10 月 2 日
14:00-15:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



スノードームとは、球形の透明なガラス容器の中に、建物の模型や人形と白い粉を入れ、水を満たした置物のこと。空きビンと小さなキャラクターのマスコットなどを参加者に持参していただき、ラメをちりばめたり、デコレーションしたり、それぞれ個性のあるかわいいスノードームができあがりました。参加者数：120 名

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークによるイベント
AICHI SCIENCE COMMUNICATION NETWORK EVENT

9. ボタニカルトーク　～植物園職員が誘う植物の魅力と不思議～

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 2 日
13:30-14:00
開催場所
名古屋市東山植物園「花ふれんど」



「温室のつる植物」と題してトークを行いました。つる性植物の特性についてご説明した後、会場を温室に移し、実際に植物を見ていただきながら解説を行いました。
参加者数：11 名

10. 三河の秋を食らおう・うまいもの PR キャンペーン

名古屋大学 9

開催日時
2011 年 10 月 2 日
10:30-17:00
開催場所
丸栄屋上イベントスペース



晴天の下、名古屋大学産学官連携推進本部が主催し、愛知県の地域資源を生かした食品の展示・即売会を行いました。出店した企業は 14 社。参加者からは、「日頃あまり目にしない商品を知る良い機会だった」との声が聞かれ、おおむね好評でした。葵武将隊も登場し、終始盛り上がったイベントになりました。参加者数：約 200 名

11. 水中ロボット生き物教室

8

開催日時
2011 年 10 月 8 日
11:00-12:00/ 14:00-15:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



科学館の中庭の池で、海洋楽者の林正道さんが制作した色々なロボットを泳がせました。リアルなウミガメやサメ、シーラカンスやプレシオサウルス。中には、海老フライまで！これらを廃材や身近なもので作るというから驚きです。林さんの楽しいトークとロボットの見事な泳ぎに、歓声が沸き起こっていました。参加者数：260 名

12. 読み語り　～祭り～

8

開催日時
2011 年 10 月 8 日
15:30-17:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



金沢嘉市氏は、蒲郡市出身の教育者。「金沢ヒューマン文庫」は、寄贈された氏の資料で開設されました。読み手は、同市立図書館を中心に活躍する「金沢ヒューマン文庫を愛し守る会」の皆さん。音楽の生演奏も交え、聞きごたえのある読み語りとなりました。幅広い年齢層の参加者 80 名が、祭をテーマにした物語に聞き入りました。

13. 植物園長さんといっしょに歩こう

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 8 日
13:30-14:30
開催場所
名古屋市東山植物園



東山植物園の見どころや、季節の植物の魅力について、実際に園内を歩きながら、植物園の園長がご紹介しました。参加者：30 名

14. 第7回自然史博物館自由研究展

豊橋市自然史博物館 13

開催日時
2011 年 10 月 8 日～11 月 6 日
9:00-16:30
開催場所
豊橋市自然史博物館

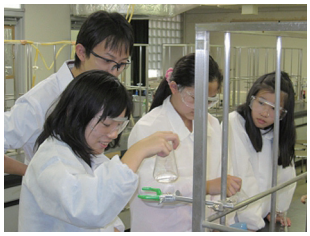


豊橋市内の小中学生が行った自由研究から、主に生物・地学をテーマにした優れた作品を展示、表彰しました。今年度は、小学校 46 校から 122 点、中学校 18 校から 49 点が集結。10 月 8 日（土）に、入賞作品の表彰式と最優秀賞の受賞者による一人 5 分の研究発表を行いました。全作品を 11 月 6 日 (日) まで展示。会期中入館者数：65,482 名

15. ノーベル賞の化学 「クロスカップリング」を体験しよう！

名古屋大学 17

開催日時
2011 年 10 月 9 日
14:00-16:00
開催場所
名古屋大学 工学部 1 号館 学生実験室



この企画は、2010 年、ノーベル化学賞の対象となった「クロスカップリング反応」を通して、化学に親しむイベントです。参加者は 17 名。そのうち 15 名は女性でした。見学の保護者も白衣と保護眼鏡を着用し、大学の実験の雰囲気を体験。触媒の添加により速やかに進行する化学反応に、全員が目を見張っていました。

16. 第 15 回（いきもの交流フェスタ特別回） 名大カフェ “Science, and Me” 「木と森の多様性」

愛知県 名古屋大学 7

開催日時
2011 年 10 月 9 日
14:00-15:30
開催場所
愛知県芸術文化センター 12F アートスペース E・F



今回の名大カフェは「いきもの交流フェスタ」のイベントとして開催されました。木の実物を見ながら、多様な植物が共存することの重要性と東海地方にのみ生育するシデコブシについてのトークが行われました。生物多様性を守る取り組みについて、電子投票機を使い、参加者と活発に話し合いました。参加者数：23 名

17. ボタニカルトーク ～植物園職員が誘う植物の魅力と不思議～

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 9, 16 日
14:00-15:30
開催場所
名古屋市東山植物園「花ふれんど」



「毛深き植物」と題してトークを行いました。
植物の「毛」についてご説明した後、会場を温室に移し、実際に植物を見ていただきながら解説を行いました。
参加者数：10 名

18. アサギマダラのマーキング調査

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 9, 16 日
9:30-11:30
開催場所
名古屋市東山植物園「合掌造りの家」



東山植物園の「カラマツ林」を中心に、「渡りをするチョウ」アサギマダラの観察とマーキングを行いました。
参加者数：10 名

19. 学芸員とおしゃべりタイム「ダンゴムシとその仲間たち」

豊橋市自然史博物館 13

開催日時
2011 年 10 月 9 日
13:30-14:00
開催場所
豊橋市自然史博物館



オカダンゴムシやハマダンゴムシを観察しながら、食べ物などの生態や生態系の中で果たしている役割についてお話ししました。また、交替性転向反応という行動を利用したダンゴムシが迷路を脱出する実験には参加者から歓声が上がりました。参加者数：96 名

20. ワークショップ「やじろべいづくり」

8

開催日時
2011 年 10 月 10 日
14:00-15:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



講師は、元蒲郡市内保育園長の小川公子さんと竹内恵子さん。30 名を超えるチビッ子とそのご家族が、紙ねんどと竹ひごで作るやじろべい作りに参加してくれました。ゆらゆらゆれるやじろべいに子供達は興味津々。ペットボトルなど身近なものでできる工作は、保護者の方からも「家でもやってみたい」と大好評でした。

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークによるイベント
AICHI SCIENCE COMMUNICATION NETWORK EVENT

21. 守山金曜科学夜話「放射線とその人体に与える影響」

名古屋大学 11

開催日時
2011 年 10 月 14 日
19:00-20:30

開催場所
守山生涯学習センター　視聴覚室



参加者 23 名。ゲストの熊谷先生は、放射線とは何かということから、最近の放射線影響研究まで、多岐にわたりお話ししました。参加者から多くの質問があり、終了時間が延びるほど盛り上がりました。また、「分かりやすかった」、「直接先生とお話できる機会が持てて良かった」などの御意見を頂きました。

22. ワークショップ「ミニチュア飾り馬制作教室」

8

開催日時
2011 年 10 月 15 日
13:00-15:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



蒲郡市独自の縁起馬である「飾り馬」は、観光みやげとして珍重されています。講師は、同市神ノ郷町で工房「人形のうまかん」を主宰する鈴木東一郎さん。参加の親子らは、用意された制作キットを受け取り、楽しくミニチュア作りに取り組みました。

23. 動物園長さんといっしょに歩こう！

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 15, 29 日
10:30-
開催場所
名古屋市東山動物園



正門に近い噴水前からスタート。マレーバク、大型ネコ科の猛獣舎、ウォンバット、食肉小獣舎…と順番に、動物園長のお話しを聞きながら巡りました。スタートから最後までお付き合いいただいたお客様がほとんどでした。園長のお話はやはり一味違うようです。参加者数：のべ 100 名（10 月 15 日と 10 月 29 日の合算）

24. チリモンで海の違いを調べたら？

名古屋大学 17

開催日時
2011 年 10 月 16 日
14:00-16:30
開催場所
名古屋大学 インキュベーション施設 プレゼンテーションルーム



チリメンジャコに入っている小さな生き物（チリメンモンスター）を観察して、地元の海について考えました。大阪湾と渥美外海で獲れたチリメンモンスターを比較して、そこから海の違いについてみんなで話し合いました。参加者ひとり一人が、意見や感想を発表できた実りあるイベントとなりました。参加者数：約 30 名

25. ワークショップ「化石発掘にチャレンジ！」

8

開催日時
2011 年 10 月 16, 29 日
14:00-15:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



親子 20 組が参加し、今からおよそ 4500 万年前の地層から、魚類の化石を発掘しました。湖の底に堆積したドロからできた頁（けつ）岩がきれいに割れて、中から小骨やウロコの化石があらわれると、わぁっと歓声が上がりました。難しい作業でしたが、みんな集中して頑張り、自分の手で化石を発掘する感動を味わいました。

26. サイエンスキッチン　親子でカガクを楽しもう！「タンパク質の不思議」

名古屋大学 6

開催日時
2011 年 10 月 16 日
13:30-16:00
開催場所
東邦ガスクッキングサロン栄



前半は、松田 幹先生（名古屋大学生命農学研究科 教授）のお話と卵やゼラチンを使った実験で、タンパク質について学習しました。後半は、タンパク質の性質を利用して、「ゼリー」と「クリームどら焼」作りにチャレンジ。大人もためになる「台所のサイエンス」。みんなでおいしく楽しみました。参加者数：18 組 37 名

27. サイエンスイラストレーション ～あいちサイエンスコミュニケーション・サマースクール 2011 受講者作品展～

名古屋大学 17

開催日時
2011 年 10 月 20 日～11 月 11 日
開催場所
名古屋大学博物館自然観察園展示室（名古屋大学東山キャンパス内）



８月に開催した「あいちサイエンスコミュニケーション・サマースクール 2011」受講者の成果を発表しました。21 名の受講者が取り組んだ頭蓋骨標本のオブザベーション・ドローイング作品と、講師をつとめた David Rini 氏（ジョンズホプキンス大学）、講座コーディネーターの奈良島知之氏の作品などが展示されました。入場者数：164 名

28. サイエンスカフェ in 名古屋 「植物利用テクノロジーの描く未来像」

名古屋市立大学 1

開催日時
2011 年 10 月 21 日
18:00-20:00
開催場所
7th cafe（セブンス カフェ）



今回のテーマは、「植物利用テクノロジーの描く未来像」。名古屋市立大学システム自然科学研究科 湯川泰教授のお話です。今後普及が見込まれる遺伝子組換え植物の是非を、原理やリスク管理の観点から解説し、議論しました。最近話題の植物工場にも触れ、今後の農業のあり方について意見を交わしました。参加者数：26 名

29. ワークショップ「牛乳パックで海の生き物をつくろう」

8

開催日時
2011 年 10 月 22 日
14:00-15:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



名古屋経営短期大学子ども学科の江村和彦先生を講師に迎え、牛乳パックを使ったアートにチャレンジしました。20 組の親子と学生さんが一緒になって、会場は和気あいあいの雰囲気に。先生と学生からのアドバイスを聞きながら、工作に熱中。みんなでたくさんの海の生き物を生み出しました。カラフルでユニークな作品が大集合

30. 中継・サテライトイベント 講演会 「先端科学技術と社会～役立ちそうにない科学が実は役に立つ～」

名古屋大学 8

開催日時
2011 年 10 月 22 日
13:45-16:30
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



サテライト会場主催者の挨拶ののち、サテライト講師の安田淳一郎氏（名城大学理工学部・助教）が、名古屋市で開催される市民向け講演会「先端科学技術と社会」の見どころを事前紹介。その後、インターネット映像中継による益川敏英氏の講演を視聴した。中継ののち、安田氏がとファシリテーターの山中氏がマイクを持ち、蒲郡サテライト会場独自の質疑応答を展開した。参加者数：15 名

31. 光合成ペンダントをつくろう！

日本モンキーセンター 12

開催日時
2011 年 10 月 22, 29 日 / 11 月 5 日
13:30-
開催場所
日本モンキーセンター　ビジターセンター

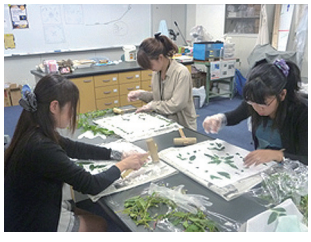


水草を用いて、日光を当てると色が変わり、光合成の仕組みを知ることができるペンダント作りをおこないました。あいにく、イベント開催日はいずれも天候に恵まれず、参加は少数にとどまりましたが、思い出に残る体験をしていただきました。
参加者数 10/22：2 名，10/29：3 名，11/5：7 名

32. ワークショップ「藍染体験」

8

開催日時
2011 年 10 月 23 日
13:30-14:30
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



藍染は蒲郡市の特産物で、1600 年前から始まったと言われています。布に藍の葉を並べ、木槌でたたいて汁を染み込ませると、簡単に藍染ができます。参加者のみなさんは、ハンカチの上におもい思いに藍の葉並べ、木槌で一生懸命たたいていました。それぞれ個性的でステキな模様の藍染ハンカチができあがりました。参加人数：10 名

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークによるイベント
AICHI SCIENCE COMMUNICATION NETWORK EVENT

33. ボタニカルトーク ～植物園職員が誘う植物の魅力と不思議～

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 23 日
13:30-14:00
開催場所
名古屋市東山植物園「花ふれんど」



「くるい咲きの話」と題してトークを行いました。季節外れの開花について、事例を交えてメカニズムを解説しました。
参加者数：6 名

34. サイエンスキッチン for kids カガクをおいしく楽しもう!「カラーマジックケーキを作ろう」

名古屋大学 3

開催日時
2011 年 10 月 23 日
午前の部 10:30-12:00/ 午後の部 13:30-15:00
開催場所
ウィル愛知



ブルーベリーを使って 3 色ケーキ作りに挑戦。材料を混ぜると、どんどん色が変わります。ケーキを焼いている間、紫芋の色素を溶かした水溶液に、酢や石けんなどの身近な物を入れて観察しました。カラーマジックの秘密が分かり、大人も子供も満足そうにケーキをほおばっていました。参加者数：12 組 33 名（2 回の合計）

35. サイエンスキッチン　カガクをおいしく楽しもう！ 豆腐のサイエンス

名古屋大学 4

開催日時
2011 年 10 月 29 日
10:00-11:30
開催場所
（株）おとうふ工房いしかわ 高浜工房



会社の代表の石川社長直々に、豆腐の材料から作り方まで教わりながら、「竹ざる豆腐」を作りました。いろいろな温度と凝固剤を試してみると、固まる様子と風味の違いにびっくり。参加者は、自分で作った「おいしい？」豆腐を楽しみました。豆腐作りのサイエンスをひも解きつつ、その奥深さに触れたひとときでした。参加者数：16 名

36. 名古屋市科学館サイエンスカフェ 「エネルギー問題と原子力」

名古屋市科学館 15

開催日時
2011 年 10 月 29 日
17:00-19:00
開催場所
名古屋市科学館 1F ミュージアムカフェ＆レストラン



当館初の“サイエンスカフェ”が、併設のカフェ&レストランで開催されました。講師は、名古屋大学 工学研究科 教授の山本一良先生。タイムリーなテーマを事前質問に沿って熱心にお話し、質疑応答も活発に行われました。参加者の感想は、「雰囲気がよく、わかりやすい」と全般的に好評でした。参加者数：47 名

37. 遺伝子の正体をあばく！

名古屋大学 8

開催日時
2011 年 10 月 30 日
14:00-15:30
開催場所
蒲郡市生命の海科学館 実験工作室



最終回のサンデ―サイエンスルーム。今回は、身近なもので遺伝子について考える実験です。保護者と一緒に実験を進め、オレンジジュース、ニワトリのレバー、参加者自身の口腔細胞から DNA を取り出しました。これらを比べて、遺伝子の本体が全ての生物に共通する物質であることを実感してもらいました。参加者数：22 名

38. ワークショップ「化石のレプリカをつくろう！」

8

開催日時
2011 年 10 月 30 日
14:00-15:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館



まずは、学芸員による化石のお話からスタート。インタープリターがサポートしながら、石こうで三葉虫とアンモナイトのレプリカを作ります。固まるまでは、準備しておいた化石のレプリカに、色をぬって楽しんでいただきました。それぞれ個性的でかわいいレプリカが完成し、素敵なオブジェのでき上がり。参加人数：40 名

39. ボタニカルトーク ～植物管理人による温室トークリレー～

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 30 日
14:00-

開催場所
名古屋市東山植物園温室



実際に温室の植物を育てている植物管理人によって、実際に温室内を歩きながら、温室の植物の魅力や豆知識、育て方のポイントなどを解説しました。参加者数：10 名

40. ボタニカルトーク ～植物園職員が誘う植物の魅力と不思議～

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 30 日
13:30-14:00

開催場所
名古屋市東山植物園「花ふれんど」



「温室の歩み」と題してトークを行いました。植物園の中心施設の一つである温室。東山植物園の温室について、これまでの歴史を中心にお話ししました。参加者数：7 名

41. 名古屋メダカ応援キッズ 2011 「繁殖メダカの放流式」

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 10 月 30 日
15:00-

開催場所
名古屋市東山動物園 世界のメダカ館



身近に生息する絶滅危惧種のニホンメダカ（名古屋メダカ）を通じ自然環境の大切さや、人と動物のかかわりに関する知識等を啓発。COP10 開催にあわせて昨年から開催し、今年で2回目です。研究報告会には愛知教育大学名誉教授の岩松先生も参加しました。参加者数：飼育研究報告会：60 名，メダカ放流式：300 名

42. 自然史講座「ヨーロッパ博物館事情」

豊橋市自然史博物館 13

開催日時
2011 年 10 月 30 日
14:00-15:00

開催場所
豊橋市自然史博物館



イグアノドンやダーウィンセンターなど、ベルギー、フランス、イギリスの博物館事情を紹介しました。参加者数：24 名

43. ツシマヤマネコ展 公開式

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 11 月 1 日
9:30-

開催場所
名古屋市東山動物園 食肉小獣舎



長崎県佐世保の九十九島動植物園から、国の特別天然記念物のツシマヤマネコが引越してきました。名前は「ひなた」。10 歳の雌です。平日にもかかわらず、多くの方が来園しました。式典では、動物園長からの挨拶を皮切りに特別アニマルトークを行い、大盛況。対馬からかけつけたツシマヤマネコの着ぐるみも大人気でした。

44. ツシマヤマネコ展 特別展

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 11 月 1 日 -11 月 13 日

開催場所
名古屋市東山動物園 動物園中央休憩所



ツシマヤマネコは、環境省のレッドリストに絶滅危惧種として指定されています。同省が進めている保護増殖事業計画の一環で東山に来ました。来園者からは、「初めて知った」、「かわいい」、「かっこいい」などの声が寄せられました。公開に合わせ、対馬の観光や・物産展も開催し、大好評でした。参加者数：のべ 10,000 名

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークによるイベント
AICHI SCIENCE COMMUNICATION NETWORK EVENT

45. 第 16 回名大カフェ "Science,and Me" 音のサイエンス

名古屋大学 2

開催日時
2011 年 11 月 2 日
19:00-20:30
開催場所
アルテーゴ ドゥ ショウズ



芸術の秋に因んで、「音」をテーマに開催。前半は、ダミーヘッドや指向性スピーカーなどの研究用機材を使い、音全般についてわかりやすく解説しました。後半は、音声合成に話題を移し、歴史や手法、最新事例を紹介。実際に音声を聴いて、これからの社会では音への感じ方がどう変わるのか、全員で考えました。参加者数：24 名

46. 動物講演会「バイオロギングで野生動物のことをもっとよく知ろう！」～ハイテク機器で動物たちの不思議に迫る～

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 11 月 3 日
13:30-15:00
開催場所
名古屋市東山動物園 動物会館 レクチャーホール



バイオロキングとは、生物にカメラやセンサーを取り付けて、野生動物の行動を追跡する調査法のこと。名古屋大学の依田先生が、鳥や哺乳類へのバイオロギング法で初めて明らかにした動物の行動についてお話ししました。たいへん貴重な映像を交えた興味深い内容で、講演後も質疑が相次ぎました。参加者数：50 名

47. 利き酒のサイエンス

名古屋大学 17

開催日時
2011 年 11 月 3 日
14:00-16:00
開催場所
名古屋大学 インキュベーション施設 1 階 プレゼンテーションルーム



日本酒に興味を持つ男女 28 名が参加。前半は、山本先生から日本酒についての講義と利き酒のポイントなどをご説明頂きました。後半は、国税局で使われる匂いサンプルで、匂いの違いなどを体験した後、市販の日本酒で利き酒を行いました。参加者からは、「大変よかった」、「また参加したい」等、高評価を頂きました。

48. シンポジウム『超小型衛星で考える、宇宙と事業ニーズ ～民間の宇宙利用実現に向けて～』

名古屋大学 14

開催日時
2011 年 11 月 4 日
19:00-21:15
開催場所
名古屋ルーセントタワー 16 階会議室



超小型衛星を題材とした「ものづくり」「宇宙」「ビジネス」をテーマにシンポジウムを開催。開発の現状や今後の課題、事例紹介の後、パネル討論を実施。電子投票機で会場の意見を交えながら、超小型衛星の認知度や訴求点、事業化の可能性について、開発者・利用者・事業経営の3つの視点で討議しました。参加者数：45 名

49. 体験教室「化石を掘ってしらべよう」

名古屋大学 17

開催日時
2011 年 11 月 5 日
12:45-16:30
開催場所
名古屋大学 東山キャンパス インキュベーション施設



子供と保護者を合わせて 44 名が参加。前半は、屋外で大きな岩から化石の入った部分を掘り出しました。後半は、室内で名古屋大学の氏原先生のお話の後、掘りだした化石をクリーニング。貝や葉っぱなどの化石の名前を調べて発表しました。大人も子供も一緒になって、とても熱心に、楽しそうに参加している様子でした。

50. ボタニカルトーク ～植物園職員が誘う植物の魅力と不思議～

東山動植物園 16

開催日時
2011 年 11 月 6 日
13:30-14:00
開催場所
名古屋市東山植物園「花ふれんど」



「日本庭園のお話」と題してトークを行いました。日本庭園の歴史や観賞のポイントについてお話ししました。参加者数：7 名

その他の企画参加団体のイベント

ウェブから登録していただいた企画参加団体のイベント開催レポートをご紹介します。開催地は P5 を参照ください。

1. 青少年のための科学の祭典 2011 名古屋大会

「青少年のための科学の祭典」名古屋大会実行委員会

開催日時
2011 年 10 月 1 日
9:30-17:00
開催場所
名古屋市科学館、でんきの科学館



今年の出展数は、東海地方の企業や大学、小・中学校、高校などから 56 件。お子さんとご父兄が様々な実験や工作に参加し、科学技術の楽しさや面白さを実感できる場となりました。両会場とも終了時間ぎりぎりまで人が絶えず、活気あるイベントでした。参加者数：6,265 名（あいちサイエンスフェスティバル事務局からの報告）

2. 名古屋大学土木系教室 50 周年記念シンポジウム 「For the Next 50years」

名古屋大学土木系教室 50 周年記念事業会

開催日時
2011 年 10 月 1 日
15:10-17:20
開催場所
名古屋大学豊田講堂



記念講演では、東日本大震災発生直後の初期活動と、そこから得られた教訓や反省が生々しく語られた。パネルディスカッションでは、新幹線などの要素技術と共に、「安全・丁寧」をモットーとする製作者全員のスピリットと、チームワークによる統合技術が重要であるとの意見が交わされました。参加者数：650 名

3. 第 16 回 spcafe 自然は対称性を好む？ -part 2-

spcafe

開催日時
2011 年 10 月 12 日
17:00-18:30
開催場所
CAFE FRONTE（名古屋大学東山キャンパス環境総合館北側向かい）

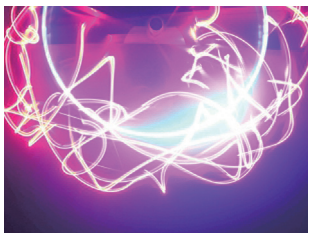


テレビ CM でおなじみの「スゴ泡グラス」の開発者がゲスト。約 20 名が訪れ、ビールとグラスを使った「実験」もあり、好評だった。流体力学の専門的なお話もあり、物理系の大学院生は知的刺激を受けたようす。また、一般参加者には、スゴ泡グラスの開発秘話が喜ばれていた。ビールが出てくるのもサイエンスカフェならでは。

4. 第 17 回 spcafe カオス―法則が生む乱れと多様さ

spcafe

開催日時
2011 年 10 月 20 日
17:00-18:30
開催場所
クレイグスカフェ（名古屋大学理学部 E 館 1 階）



会場には、カオス運動をする「三重ふりこ」が設置され、参加者の注目を集めていました。ゲストの小西先生は、その他にも様々な小道具を使って、難しいカオスの概念と意味を丁寧に説明しました。「カオス=乱雑」という簡単な理解ではなく、より深く切り込んだ説明に、参加者は皆さん満足した様子でした。参加者数：約 30 名

5. サイエンスビアホール（第38回日本農芸化学会サイエンスカフェ）

日本農芸化学会中部支部

開催日時
2011 年 10 月 22 日
15:00-17:00
開催場所
キリンビール名古屋工場



実際にビール作りに携わるプロから、製法や原料が最終製品の品質にどのように反映されるのか、かなり踏み込んでお話しして頂きました。また、名古屋大学の下村先生は、生活習慣病と食事について、すぐに役立つお話をされました。美味しいビールとおつまみつきで、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。出席者数：24 名

6. 第 22 回中部バイオテクノロジーシンポジウム 「高齢化社会における医療機器開発と医工連携」

NPO 法人バイオものづくり中部

開催日時
2011 年 10 月 27 日
13:30-17:00
開催場所
名古屋大学 ＶＢＬ３階　ベンチャーホール



長寿医療研究センターの丸山和佳子先生に『健康長寿社会を実現するための基礎的、臨床的研究の現状』について基調講演を頂きました。その後、名古屋医工連携インキュベータに入居の企業を中心に、各社の事業内容についてのプレゼンテーションが行われ、参加者同士の活発な議論が行われました。参加者数：74 名。

その他の企画参加団体のイベント

ウェブから登録していただいた企画参加団体のイベント開催レポートをご紹介します。開催地は P4 を参照ください。

7. もの忘れ家族教室「認知症の人の栄養」

国立長寿医療研究センター

開催日時
2011 年 10 月 5 日
13:00-14:00
開催場所
国立長寿医療研究センターもの忘れセンターカンファレンスルーム

高齢者総合診療科 佐竹昭介医師からは、栄養障害への対策などについて、金子康彦 栄養管理室長からは、高齢者の食事と問題点についてなどの講義がありました。参加者には、食品摂取頻度調査に協力してもらいました。参加の方からは「わかりやすい話だった」などの意見があり、講義後にも質問が多数ありました。参加者数：13 名

8.「西三河生態系ネットワーク」フォーラム

愛知学泉大学

開催日時
2011 年 10 月 1 日
13:30-16:00
開催場所
愛知学泉大学 豊田キャンパス 8 号館 103 教室



環境保全に興味のある大学生からご年配まで、約 100 名の方々にご参加をいただきました。「産業・暮らし・自然が共生する持続可能な循環型の地域づくり」をテーマに、西三河の豊かな自然環境と県内の産業を次世代へつなげるべく、県民・企業・行政が一体となって地域づくりを目指す『新しい公共』の提案がおこなわれました。

9. 第 23 回椙山フォーラム「現代の医療はどこまでできるのか？」

椙山女学園大学

開催日時
2011 年 10 月 1 日
13:00-16:00
開催場所
椙山女学園大学 星が丘キャンパス 文化情報学部メディア棟 001 大講義室



今回は「現代の医療はどこまでできるか？」というテーマに基づき、石川清 氏（名古屋第二赤十字病院院長）をはじめ、この地方を代表する 5 名の先生方によりオムニバス形式で、日本の最先端医療の現状がわかりやすく説明されました。講演終了後には、本学看護学部教員による無料健康相談が行われました。参加者数：約 280 名

10. もの忘れ家族教室「認知症の予防」

国立長寿医療研究センター

開催日時
2011 年 10 月 11 日
13:00-14:00
開催場所
国立長寿医療研究センターもの忘れセンターカンファレンスルーム

もの忘れセンター外来部長櫻井孝医師より認知症の予防対策として食事や運動、高血圧と認知症発症の相対危険について講義をされた。認知症予防というテーマで参加者の関心も高く、参加者が実際に現在行なっている予防法が適切なのかなどの質問もあった。参加者数：15 名

11. サイエンスカフェ・コミュニケーション懇話会「宇宙は何でできているのか」

株式会社ナノオプト・メディア

開催日時
2011 年 10 月 9 日
11:30-13:30
開催場所
サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイ



ゲストの村山先生のお話は、終始会場を引き込み、笑いを与え、非常に満足度の高いものでした。喜ばしいことに、宇宙研究という非日常的な事柄に対して、一般の方々がとても高い関心を抱いていることを改めて感じる回となりました。村山先生は、宇宙に関する一つひとつの疑問を分かり易く紐解いていました。参加者数：56 名

12. オートモ号走行披露

トヨタ博物館

開催日時
2011 年 10 月 10 日
11:00-
開催場所
トヨタ博物館　本館前ロータリー



企画展「大正 100 年記念 大正自動車ものがたり」に展示しているオートモ号が走行しました。大正13 年からの 4 年間で約 300 台が生産され、国産車輸出第 1 号です。今回走った車は 1999 年に国立科学博物館とトヨタ博物館が共同で復元したもので、唯一の現存車。クルマが走り出すと歓声や拍手がおこり盛り上がりました。参加者数：約 300 名

13. サイエンスカフェ・コミュニケーション懇話会 「太陽系外惑星の世界と宇宙の生命探査」

株式会社ナノオプト・メディア

開催日時
2011 年 10 月 16 日
11:30-13:30
開催場所
サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイ



ゲストの海部さんから、ドップラー効果等による従来の惑星分析法と、バイオマーカー（生命存在の証拠）を利用した最新の手法について解説して頂きました。お客さんは、終始真剣な眼差しでモニターを見つめながら、講演に聞き入っていました。今後、より多くの惑星が見つかる期待感いっぱいのお話でした。参加者数：56 名

14 もの忘れ家族教室「認知症を持つ人への対応・ケア」

国立長寿医療研究センター

開催日時
2011 年 10 月 18 日
13:00-14:00
開催場所
国立長寿医療研究センターもの忘れセンターカンファレンスルーム

鈴木千世 認知症看護認定看護師が、認知症の人と接するときの基本的態度、認知症ケアの 9 原則について講演しました。認定看護師からのお話ということもあり、質疑では、介護を行っている中での悩みに関する相談も受けました。アンケートに記入された質問については、次回講義時に回答文書をお渡ししました。参加者数：14 名

15. サイエンスカフェ・コミュニケーション懇話会 「『はやぶさ』が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その7年間の歩み」

株式会社ナノオプト・メディア

開催日時
2011 年 10 月 24 日
18:00-20:00
開催場所
サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイ



店舗の定員を大きく超える人数に参加いただいたため、食事のあとに 16 階の会場まで移動するスタイルで実施。川口先生の話はとても面白く、大人も子供も理解できるようにお話をしてくださいました。資料も分かりやすく作られていたためか、子供も飽きずに真剣に聞いていたのが印象的でした。参加者数：110 名

16. 不思議の小部屋の錯覚展

ソーシャルアートラボ roof

開催日時
2011 年 10 月 28 日～11 月 1 日

開催場所
名古屋芸術大学アートスペース T.A.G. IZUTO



「一般と専門の相互支援による、環境型社会の促進」をコンセプトに、科学の楽しさをアートで伝える新企画、「科学とアートの融合・サイエンス・アートプロジェクト」を行いました。ご来場のお客様より、「とても楽しいイベントでした」「作品の見え方が人によって違うことが分かった」等、とても高い評価をいただきました。

17. Japan AWS User Group(JAWS)- Nagoya 勉強会 第2回

Japan AWS User Group-Nagoya

開催日時
2011 年 10 月 29 日
18:00-21:00
開催場所
愛知県産業労働センター ウインクあいち 1310（特別会議室Ｅ）



下記の 3 名の方に AWS の紹介・実用事例をお話しいただきました。テーマは以下の通り。（1）アマゾンデータサービスジャパン㈱ ソリューションアーキテクト 片山氏「AWS のアップデートについて」（2）cloudpack エバンジェリスト後藤氏「cloudpack 紹介」（3）有限会社来栖川電算 山口氏「AmazonAWS で作る大規模データマイニング環境」 参加者数：11 名

18. サイエンス・カフェ in 藤前干潟 ～人と自然の共生に向けて～

「藤前干潟ふれあいデー」実行委員会

開催日時
2011 年 10 月 30 日
10:30-11:30/13:30-14:30
開催場所
環境省稲永ビジターセンター（1階レクチャー室）



第一部では、猛禽類の専門家から、藤前干潟に訪れるミサゴなどの猛禽類のお話を伺いました。第二部では、水族館の飼育員さんから、干潟や名古屋港に生息する生き物のお話を聞きました。第一部、第二部ともに、専門家から生き物の魅力や現状などのお話を聞ける有意義な時間となりました。参加者数：第一部、第二部共に約 40 名

その他のイベント

ウェブから登録していただいた 13 団体のイベント開催レポートをご紹介します。開催地は P4 を参照ください。

19. サイエンスカフェ・コミュニケーション懇話会「天文学最前線」

株式会社ナノオプト・メディア

開催日時
2011 年 10 月 31 日
18:30-20:30
開催場所
サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイ



国立天文台が歩んできた道のりから天文学の詳細まで、内容の濃いお話を聞くことができました。観山先生の話のテンポがすごくよく、話の面白さが会場全体に伝わり、終始笑いが耐えませんでした。今回の参加者はほとんどが大人でしたが、次回からはぜひ学生などにも聞いてもらいたい内容でした。参加者数：35 名

20. もの忘れ家族教室「まとめ」

国立長寿医療研究センター

開催日時
2011 年 11 月 1 日
13:00-14:00
開催場所
国立長寿医療研究センターもの忘れセンターカンファレンスルーム

内科総合診療部長 遠藤英俊医師より、認知症の基礎的理解と主な症状、診断、治療、予防、ケア、支援などについてのお話がありました。「本人が受診と検査を拒んでいるが、どうやって検査を受けさせたらよいか？」等の質問があり、遠藤医師は丁寧に回答していました。参加者間で意見交換もされていました。参加者数：16 名

21. ネッタン 現実を変える、ビジネスを変える「ソーシャルメディア」の可能性

アイスタイル株式会社

開催日時
2011 年 11 月 3 日 15:00-16:30
13:00-16:00
開催場所
愛知県産業労働センター ウインクあいち 907



最近、よく耳にする「ソーシャルメディア」。その本質についての理解が深まる内容でした。参加者からの質問タイムでは、時間が足りなくなるほど盛り上がりました。講師の津田大介さんからも、「今回は良い質問が多い」との言葉をいただき、「また来年も名古屋で開催しましょう」という話になりました。参加者数：35 名

22. Scratch（スクラッチ）で体験するプログラミング ～のぞいてみよう！科学オリンピックの世界～

独立行政法人科学技術振興機構

開催日時
2011 年 11 月 3 日
13:00-16:00
開催場所
中京大学 豊田キャンパス



東海 3 県から 12 名の中高生が参加し、話題のスクラッチ体験。複雑な迷路を通り抜ける方法をチームで検討し、力を合わせて最後まで諦めずに挑戦しました。3 時間ほどのワークショップでしたが、参加者は時間を忘れてプログラミングを楽しんだようす。エンジニアをめざす若者が増えることを願うイベントでした。

23. 第5回科学ものづくりフェスタ@愛教大

愛知教育大学

開催日時
2011 年 11 月 5 日
10:00-16:00
開催場所
愛知教育大学　第一共通棟および自然科学棟



5 回目の開催となる今回は、本学教員・学生による企画「訪問科学実験」「ものづくり教室」「教材開発工房」「天文台一般公開」と、卒業生、現役の学校教員や外部協賛団体による企画など、合わせて 46 のプログラムが開催されました。この日の来場者は約 800 名。秋の一日を科学実験やものづくりの体験で満喫していただきました。

24. 生理学研究所 一般公開 2011「見て聞いて感じてみよう！心と体の不思議」

自然科学研究機構生理学研究所

開催日時
2011 年 11 月 5 日
9:30-17:00
開催場所
自然科学研究機構（岡崎）山手キャンパス・岡崎コンファレンスセンター



自然科学研究機構の岡崎3研究所が毎年交代で行っている一般公開。今年は、生理学研究所が 3 年ぶりに担当し、11 月 5 日（土曜日）に開催されました。当日は、2100 名の方にご来場いただきました。多くの皆さまに、研究所の研究活動を知っていただくことが出来たと感謝しております。ありがとうございました。

日本科学技術ジャーナリスト会議（JASTJ）シンポジウム

原発報道を振り返る

開催日：2011 年 11 月 6 日（日）
時　間：14:00 ～ 18:00
場　所：名古屋大学 ES 総合館 1 階 ES ホール



挨拶



武部俊一氏
JASTJ 会長
元朝日新聞
科学部長



総合司会

引野 肇氏
JASTJ 事務局長
中日新聞 編集委員 / 元科学部長

基調講演



原発報道は大本営発表だったのか？
瀬川至朗氏
JASTJ 理事
早稲田大学 教授
元毎日新聞 科学環境部長



原発報道「失敗」の歴史
柴田鉄治氏
JASTJ 理事
元朝日新聞 社会部長・科学部長

パネルディスカッション

室山哲也氏
JASTJ 理事　NHK 解説主幹
上田俊英氏
JASTJ 理事　朝日新聞 科学医療部長
早川正也氏
福島民報社 編集局 報道部長
松原純子氏
放射線影響協会 研究参与
森真由美氏
JASTJ 会員　サイエンスライター・主婦
山澤弘実氏
名古屋大学 教授



JASTJ 会長の武部俊一氏の挨拶の後、柴田鉄治理事と瀬川至朗理事が登壇。約 30 分ずつ講演しました。後半は、室山哲也 JASTJ 理事を中心にパネルディスカッションを実施。会場からのコメントを受けながら、熱い議論を展開しました。来場者の意見は、質疑と電子投票機で即時に共有。インターネット映像中継などを利用した「双方向コミュニケーション」を通して議論を進めました。村山氏による総括の後、在愛知県 JASTJ 会員の倉田智子氏（自然科学研究機構 基礎生物学研究所）から、「JASTJ の中部地区での活動の活性化をめざして」というテーマで提言があり、最後に、名古屋大学理事・副総長の山本一良氏が、フェスティバル全体の閉幕を宣言しました。

Pre イベント

プレイベントを開催し、10 月 1 日のスタートに向け、はずみをつけました。

1. あいちサイエンスコミュニケーション・サマースクール 2011 「サイエンス・イラストレーション入門」

開催日時
2011 年 8 月 24-26 日
10:30-16:15

開催場所
名古屋大学内

講師
ジョンズ・ホプキンス大学 医学部 Art as Applied to Medicine 専攻
David Rini 准教授

コーディネーター
サイエンスイラストレーター
Tane+1 LLC 代表
奈良島知行 氏



2. 企画展「Science Illustration ～科学を伝える伝統的で新しい技法～」

開催日時
2011 年 8 月 24 ～ 9 月 2 日
10:00-18:00

開催場所
名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」



3. さかえサイエンストーク第 5 回 「サイエンスイラストレーション 魅惑の世界」

開催日時
2011 年 8 月 25 日
18:30-20:00

開催場所
ガロンコーヒー 丸栄店

講師
ジョンズ・ホプキンス大学 医学部 Art as Applied to Medicine 専攻
David Rini 准教授

講師
筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻
田中佐代子 准教授



4. マンガが描いたサイエンス ～岡本一平、アインシュタイン、少年マンガ～

開催日時
2011 年 8 月 27 日
17:00-18:30

コンテンツ交換

開催場所
カフェ・マウンテンブックス（函館市）

講師
名古屋大学 サイエンスコミュニケーション推進室
藤吉隆雄 氏



5. さかえサイエンストーク第 6 回「夢に翔んだボイジャー」

開催日時
2011 年 9 月 2 日
18:30-20:00

開催場所
ジュンク堂書店 ロフト名古屋店 7F ブックサロン

講師
名古屋大学 名誉教授
樋口敬二 氏



6. さかえサイエンストーク第 7 回「世界の航空宇宙ショー」

開催日時
2011 年 9 月 6 日
18:30-20:00

開催場所
ガロンコーヒー丸栄店

講師
日本航空宇宙工業会
宮修一 氏



7. さかえサイエンストーク第８回
「古生物学者の世界見聞録　～フィールド調査と異文化交流～」

開催日時
2011 年 9 月 13 日
18:30-20:00

開催場所
ジュンク堂書店 ロフト名古屋店
7F ブックサロン

講師
株式会社 ActoW
荻野慎太郎 氏



8. さかえサイエンストーク第９回
「私がダニのコンピュータグラフィックを描くようになったわけ？ ダニから見た生物多様性」

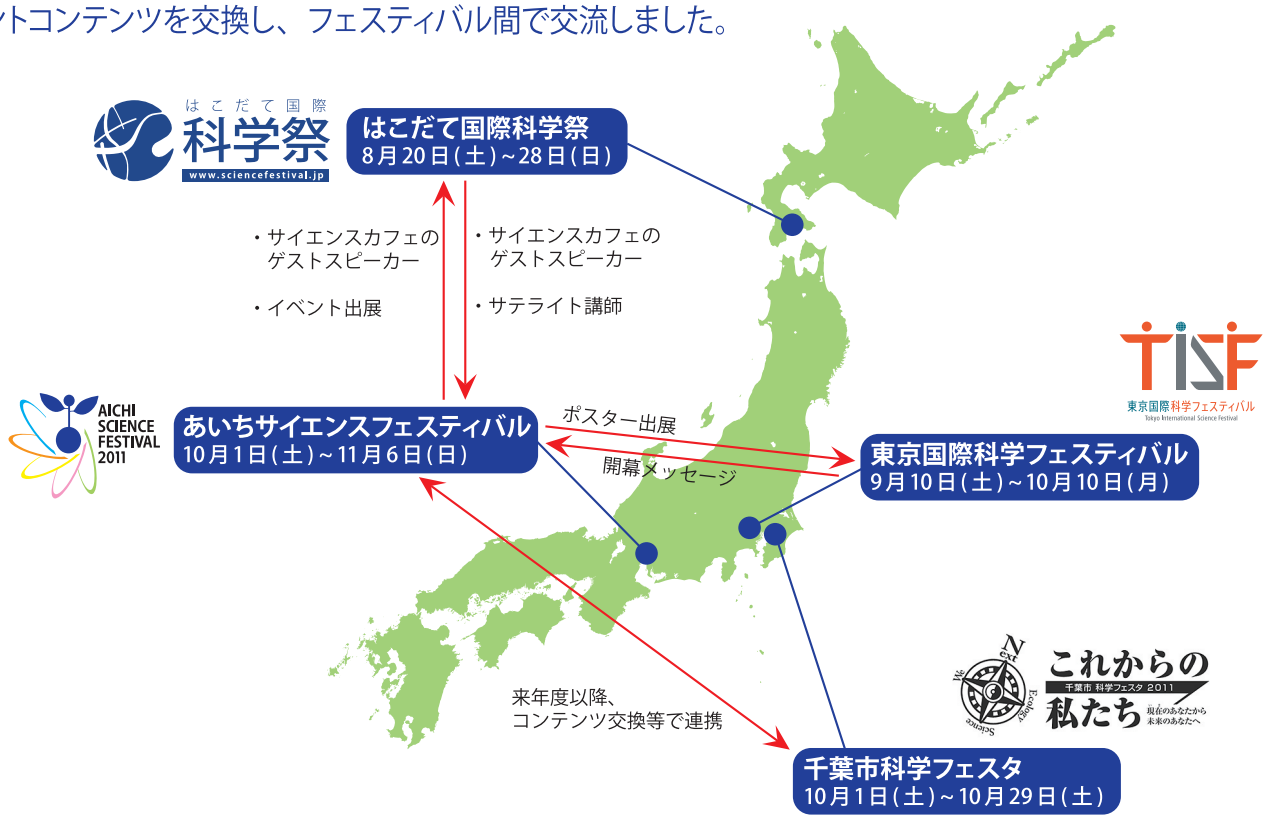
開催日時
2011 年 9 月 23 日
18:30-20:00

開催場所
ジュンク堂書店 ロフト名古屋店
7F ブックサロン

講師
国立環境研究所
五箇公一 氏



連携した他のサイエンスフェスティバル
イベントコンテンツを交換し、フェスティバル間で交流しました。



サイエンスフェスティバルとは、科学をテーマにした町ぐるみのお祭りのこと。1981 年にイギリスのエジンバラで始まり、今ではヨーロッパだけでなくアメリカでも行われています。日本では 2009 年から、「はこだて国際科学祭」と「東京国際科学フェスティバル」が開催されるようになりました。2011 年からあらたに愛知県と千葉市でスタートし、誰もが科学に親しむ場として、各地に広がることが期待されています。

2012 年の開催予定
- はこだて国際科学祭　8 月 18 日（土）～ 8 月 26 日（日）
- 東京国際科学フェスティバル　9 月 8 日（土）～10 月 8 日（月）
- 千葉市科学フェスタ（メインイベント）　10 月 6 日（土）～10 月 7 日（日）
- あいちサイエンスフェスティバル　9 月 29 日（土）～11 月 4 日（日）

Post イベント

ASF 終了後から 2012 年 3 月末までの企画は、ポストイベントとして開催しました 。

1. 守山金曜科学夜話「遺伝子診断～科学とビジネスの倫理～」

開催日時
2011 年 11 月 11 日
19:00-20:30
開催場所
守山生涯学習センター 視聴覚室
講師
名古屋大学　武田穣 氏
参加者数
19 名



2. サイエンスカフェ　in 名古屋
「色覚バリアフリーのための画像処理～見分けやすい色への変換～」

開催日時
2011 年 11 月 18 日
18:00-20:00
開催場所
7th cafe（セブンス カフェ）
講師
名古屋市立大学　田中豪 氏

3. サイエンスアゴラ 2011「あいちサイエンスフェスティバル」ポスター出展

開催日時
2011 年 11 月 19 日 - 20 日
10:00-17:00
開催場所
日本科学未来館　オリエンテーションルーム 2
ポスター見学者数
約 300 名



4. サイエンスラボ「いん石と太陽系」

開催日時
2011 年 11 月 23 日
4:00-15:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館　実験工作室
参加者数
25 名



5. ミニ企画展「小惑星探査機はやぶさのおみやげ」

開催日時
2011 年 11 月 27 日 - 12 月 4 日
9:00-17:00
開催場所
蒲郡市生命の海科学館 1階フリースペース

6. 守山金曜科学夜話「市民社会とメディアの役割」

開催日時
2011 年 12 月 2 日
19:00-20:30
開催場所
守山生涯学習センター 視聴覚室
講師
中日新聞社　加藤美喜 氏



7. 名大カフェ "Science, and Me" 第 17 回
「赤ちゃんの世界―赤ちゃんはどのように見ている?」

開催日時
2011 年 12 月 7 日
19:00-20:30
開催場所
アルテーゴ ドゥ ショウズ
講師
生理学研究所　仲渡江美 氏



8. あいちサイエンストーク
「サイエンス・ジャーナリズムってなんだろね?」

開催日時
2011 年 12 月 16 日
18:00-21:00
開催場所
名古屋大学農学部 1F 談話室
講師
名古屋大学　藤吉隆雄 氏
参加者数
21 名



9. サイエンスカフェ in 名古屋「カタチの数学〜絡み目〜」

開催日時
2011 年 12 月 16 日
18:00-20:00
開催場所
7th cafe（セブンスカフェ）
講師
名古屋市立大学　鎌田直子 氏

10. 第3回アカデミーサロン：生徒・学生談話会
ES 館オープン記念第2弾―クリスマス特別イベント
ノーベル物理学賞　益川敏英特別教授が贈る
特別記念講座「CP 対象性とは?」

開催日時
2011 年 12 月 27 日 12:00-17:30
開催場所
名古屋大学 Engineering & Science (ES) 館
講師
名古屋大学　益川敏英 氏　青木保直 氏
参加者数
20 名



11. 名大カフェ "Science, and Me" 第 18 回
「地球外で生命は生まれるか?ー宇宙が語る生命の起源ー」

開催日時
2012 年 1 月 11 日
19:00-20:30
開催場所
アルテーゴ ドゥ ショウズ
講師
横浜市立大学　小林憲正 氏



12. 守山金曜科学夜話
「宮沢賢治と宮崎アニメが語る近代科学技術の光と影」

開催日時
2012 年 1 月 20 日
19:00-20:30
開催場所
守山生涯学習センター 視聴覚室
講師
名城大学　川勝博 氏



Post イベント

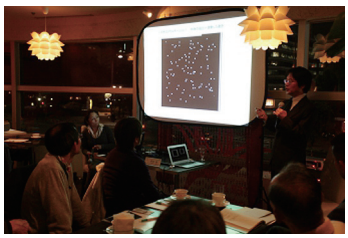
ASF 終了後から 2012 年 3 月末までの企画は、ポストイベントとして開催しました 。

13. サイエンスカフェ in 名古屋「発生工学と未来」

開催日時
2012 年 1 月 20 日
18:00-20:00
開催場所
7th cafe（セブンスカフェ）
講師
名古屋市立大学　加藤宏一 氏

14. 名大カフェ "Science, and Me" 第 19 回 「ヒトはなぜ夢をみるのか？　脳科学が解き明かす夢のしくみ」

開催日時
2012 年 2 月 1 日
19:00-20:30
開催場所
アルテーゴ ドゥ ショウズ
講師
名古屋大学　澤田誠 氏
参加者数
38 名



15. 守山金曜科学夜話 「環境問題とこれからの私たちのくらし」

開催日時
2012 年 2 月 10 日
19:00-20:30
開催場所
守山生涯学習センター 視聴覚室
講師
名古屋工業大学　稲垣隆司 氏



16. 国境を越えるサイエンス・エデュケーション 「問題解決型理科学習」とは？

開催日時
2012 年 2 月 25 日
13:30-16:00
開催場所
JICA 中部なごや地球ひろば　セミナールーム B1-3

前半は、講師の吉井眞澄氏が、パキスタンやカンボジアでの体験をもとに「科学教育支援を行う際の問題点やその解決策」の一例を紹介。後半は『問題解決型理科学習』を事例に、参加者が簡単な科学実験を体験し、「考える学習とは何か」、「どのように自ら考えさせる場面を作るのか」、そのための方法やコツを考えました。参加者数：21 名



17. 名大カフェ "Science, and Me" 第 20 回 「宇宙に外側はあるかー現代宇宙論のフロンティアー」

開催日時
2012 年 3 月 14 日
19:00-20:30
開催場所
アルテーゴ ドゥ ショウズ
講師
名古屋大学　松原隆彦 氏

18. サイエンスカフェ in 名古屋 「色覚バリアフリーのための画像処理～見分けやすい色への変換～」

開催日時
2012 年 3 月 16 日
18:00-20:00
開催場所
7th cafe（セブンスカフェ）
講師
名古屋市立大学　渡邊裕司 氏

19. 90 分でわかる放射能の基礎知識

開催日時
2012 年 3 月 18 日
13:00-14:35
開催場所
名古屋市教育センター 講堂
講師
名古屋市立大学　齋藤勝裕 氏

20. 名古屋市立大学・日本政策投資銀行連携市民公開シンポジウム「環境教育を考える〜COP10の経験をESDに活かす〜」

開催日時
2012 年 3 月 24 日
13:00-15:20
開催場所
東建ホール・丸の内

※Post イベントは 3 月 4 日までに登録された情報にもとづき掲載しています。

メディア掲載情報

1.【行催事】あいちサイエンスフェスティバル・さかえサイエンストーク
中日新聞 朝刊 2011 年 9 月 13 日

2. あいちサイエンスフェスティバル　講演会「先端科学技術と社会」
中日新聞 朝刊 2011 年 9 月 15 日

3. ノーベル賞益川さんらの講演　名古屋の会場と結び生中継
東日新聞 朝刊 2011 年 9 月 27 日

4.【行催事】東邦ガス親子クッキング教室
中日新聞 朝刊 2011 年 9 月 29 日

5. 来月 1 日から蒲郡の科学館　益川さん講演中継も
中日新聞 朝刊 2011 年 9 月 29 日

6. 科学技術を連日講義　あすから県内全域「サイエンスフェス」
中日新聞 朝刊 2011 年 9 月 30 日

7. 最先端科学広く市民に　きょうから 5 週間サイエンスフェス
中日新聞 夕刊 2011 年 10 月 1 日

8. 益川さんの講演も中継
蒲郡新聞 2011 年 10 月 1 日

9. 高齢社会の医療紹介　名古屋で市民向け講演会
中日新聞 朝刊 2011 年 10 月 9 日

10. ノーベル賞研究 実験教室で理解
中日新聞 朝刊 2011 年 10 月 13 日

11.【心の一作】ノート　日本昆虫記
中日新聞 朝刊 2011 年 10 月 23 日

12.【展覧会】あいちサイエンスコミュニケーション・サマースクール 2011
中日新聞 朝刊 2011 年 10 月 26 日

13. 福島第 1 原発事故　報道めぐりシンポ
中日新聞 朝刊 2011 年 11 月 8 日

14.【スポットライト】 丁寧にじっくり化石堀り
中日新聞 朝刊 2011 年 12 月 4 日

＜雑誌・その他＞

1.JASTJ の協力イベントの紹介
JAST JNEWS　2011 年 9 月号　NO.60

2. あいちサイエンスフェスティバルを開催
名大トピックス 2011 年 12 月号　NO.223

3. 飯島教授が市民に向けて講演
名城大学広報 2012 年 1 月号　NO.524

4. 日本の顔　益川敏英
文藝春秋 2012 年 1 月号

5. あいちサイエンスフェスティバルを開催
Newton2011 年 10 月号

6. 藻類「イシクラゲ」は除染の切り札か？
（2011 年 10 月 14 日）
「大本営発表の批判、仕方ない」原発報道で新聞社幹部ら弁明（2011 年 11 月 07 日）
・オルタナ・オンライン
http://www.alterna.co.jp/
・Yahoo! ニュース
http://headlines.yahoo.co.jp/

広報（印刷物）

あいちサイエンスフェスティバルのロゴマーク

ミクロな生命からマクロな宇宙までを想像させる全体シルエットで、サイエンスの幅広さを表現。人にも植物にも見えるデザインにより生物多様性をシンボル化。星の上に住むもの、星の外にあるもの、ありとあらゆる存在の声を聴き、見つめる営みがサイエンスであることを連想させる。愛知県からサイエンスが芽吹くイメージと、愛知県民がサイエンス・コミュニケーターとして相互に交流・議論し、世界へ情報発信する姿をイメージとして重ね合わせて表現した。

デザイン：松場宏忠（MTB Design）

AICHI SCIENCE FESTIVAL 2011

ネットワーク発行の広報ポスター・チラシ

ネットワーク活動として各種のポスター・チラシを発行し、あいちサイエンスフェスティバルとネットワーク活動の広報に活用しました。







あいちサイエンスフェスティバル 2011

- A4 サイズ 片面チラシ（7 月 22 日版）
- B2 サイズ 片面ポスター（9 月 1 日版）
- A4 サイズ 片面チラシ（9 月 1 日版）
- A3 サイズ 両面ポスター兼チラシ（9 月 22 日版）
- 6 つ折ポケットガイド（10 月 1 日版）

デザイン・DTP：松場宏忠（MTB Design）





日本科学技術ジャーナリスト会議シンポジウム

- A4 サイズ 片面チラシ

デザイン・DTP：藤吉隆雄（名古屋大学）



あいちサイエンスコミュニケーション・サマースクール 2011
さかえサイエンストーク
「サイエンスイラストレーション 魅惑の世界」
企画展「Science Illustration 科学を伝える伝統的で新しい手法」

- A4 サイズ 両面チラシ

デザイン・DTP：鈴木眞里子（株式会社グエル）











さかえサイエンストーク

- A4 サイズ 片面チラシ（8 ～ 9 月開催分）
- A4 サイズ 片面チラシ（10 月開催分）
- A4 サイズ 片面チラシ（11 月追加開催分）

デザイン・DTP：古田央哲（名古屋大学）

各参加企画が独自に発行した広報ポスター・チラシ

あいちサイエンスフェスティバル 2011 のそれぞれの登録企画でも、ロゴマーク・ロゴタイプを活用いただきました。



広報（WEB など）

あいちサイエンスフェスティバルのウェブサイト

あいちサイエンスフェスティバルのウェブサイトは、どなたでもサイエンスイベント参加企画を登録していただけるシステムとして開発しました。初開催の今年度は 7 月 18 日よりテスト稼働を開始し、8 月 1 日より参加企画の登録受付を開始。11 月 4 日でフェスティバル参加企画としての登録は終了しましたが、その後もサイエンスイベント情報発信サイトとしてイベントを登録可能な状態で運用しています。



メールマガジン「あいちサイエンスコミュニケーション通信」

ウェブサイトに登録されたサイエンスイベントの情報は、会期中に毎日発行したメールマガジンで開催前日と当日に配信されました。フェスティバル終了後も毎週月曜に配信を継続し、2012 年 3 月末までに 60 号を発行する見込みです。



インターネット映像中継

あいちサイエンスフェスティバルの中心企画では、インターネット映像中継を実施しています。
世界的な映像中継プラットフォーム USTREAM を利用し、市民向け講演会やサイエンストークの現場に来られない方にも、サイエンスに触れていただけます。





サイエンスカフェ支援パッケージ

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークでは、サイエンストーク活動の実践を通じてサイエンスカフェ支援パッケージの開発を進めています。サイエンスカフェ開催時に必要な機材とマニュアルをパッケージ化。なるべく小型軽量な機材をそろえました。このパッケージを持参するだけで、どこでも気軽にサイエンスカフェが開催できます。リアル活動としてのサイエンスカフェを運営するキット、ネット活動に展開するためのインターネット映像中継キットの二つから構成。それぞれのキットを1名で運用できるため、最低2名のスタッフでインターネット中継を含んだサイエンスカフェを開催できます。



インターネット映像中継運営キット

「さかえサイエンストーク」では名古屋大学サイエンス・コミュニケーション推進室がインターネット映像中継を実施しました。この実践を踏まえ、30 人規模会場ならば事前準備をほとんどしなくても配信できるように機材を準備しています。ビデオカメラや配信用ノートPCなどのほか、場所をとらずにビデオカメラを設置できるクランプや一本足スタンド、サイエンスカフェ運営キットの無線マイクから直接に音声が届く受信機、インターネット・データ通信端末などがキット化。このキットはサイエンスカフェ以外のイベントでも活用できます。

サイエンスカフェ運営キット

サイエンスカフェの運営に必要な道具をキット化。スクリーン代替品は、直径 64 センチの円盤がワンアクションで 120×180 センチの画面に展開できます。プロジェクターは 30 名規模のカフェ会場に楽に音声が届くパワースピーカーを内蔵したモデル。遺伝子診断や原発事故対応など、挙手では意見表明がしにくい問題をあつかう際に、会場の意見を瞬時に集約する電子投票システムも準備しました。もちろん、プレゼン用ノートPCやレーザーポインターなどもキットに入っています。

電子投票システム

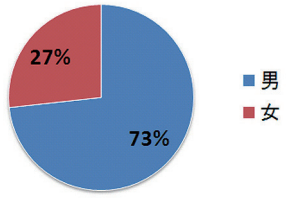
米 KEEPAD 社製の電子投票システム Response Card RF システムを導入しました。名刺サイズの子機による投票情報が瞬時に電波でレシーバーに送られ、パワーポイントのプレゼンテーション画面に即座に集計結果として表示されます。市民向け講演会「先端科学技術と社会」や「さかえサイエンストーク」を中心に活用しました。匿名投票なので、遺伝子診断や原発事故など、挙手では意見表明がしにくい問題での意見表明がしやくすくなり議論を活発化できます。また、クイズや参加者アンケートにも利用可能。講演会などでの多人数の意見集約にも威力を発揮します。さらに、インターネット回線を介して、遠隔地にある複数の会場の参加者の意見をリアルタイムで集計することもできます。

参加者アンケート結果

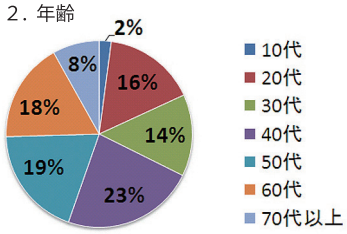
参加者アンケート

ネットワーク活動として実施した中心企画と機材支援企画について、ＪＳＴ科学コミュニケーション連携推進事業による様式のアンケートを実施しました。この集計には電子投票システムを活用しています。

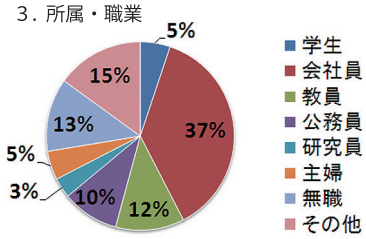
1．性別



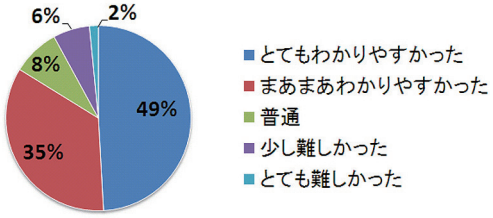
2．年齢



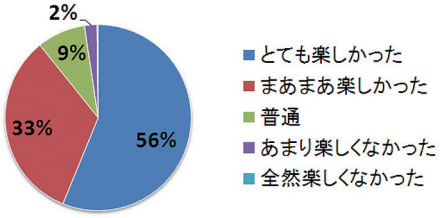
3．所属・職業



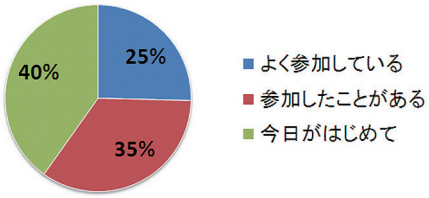
4．今日の感想をお答えください



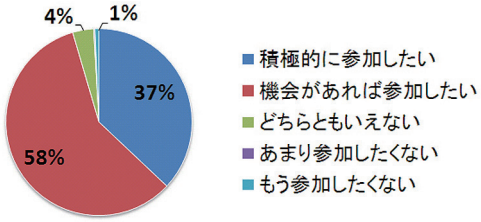
5．今日の感想をお答えください



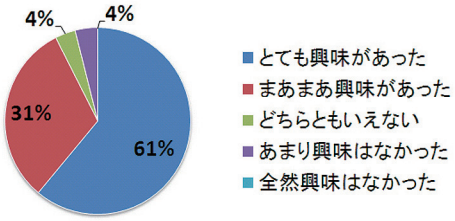
6．以前にもこのような活動に参加したことがありますか？



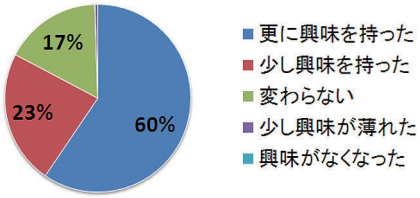
7．また参加したいと思いますか



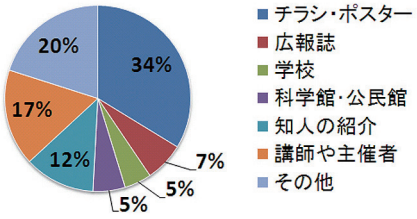
8．今まで、自然や科学・技術に興味がありましたか？



9．今日参加して、自然や科学・技術への興味が高まりましたか？



１０．今日の活動をどこで知りましたか？



集計対象：44 企画

ASF2011 週例中心企画：市民向け講演会「先端科学技術と社会」（全 6 回）、中継・蒲郡市生命の海科学館サテライトイベント「先端科学技術と社会」（全 2 回）
ASF2011 グランドクロージング企画：日本科学技術ジャーナリスト会議シンポジウム（1 回）
ASF2011 機材支援企画：さかえサイエンストーク（全 20 回）、シンポジウム「超小型衛星で考える、宇宙と事業ニーズ」（1 回）、名大カフェ（1 回）、守山金曜科学夜話（1 回）
ASF2011 展覧会企画：あいちサイエンスコミュニケーション・サマースクール 2011 受講生作品展（1 回）
プレ企画：さかえサイエンストーク（全 5 回）、あいちサイエンスコミュニケーション・サマースクール 2011（1 回）、企画展「Science Illustration」（1 回）、
実践講座
ポスト企画（機材支援）：あいちサイエンストーク（1回）、守山金曜科学夜話（2 回）、名大カフェ（1 回）

※ＪＳＴ科学コミュニケーション連携推進事業による様式のアンケートを実施いただける企画で利用いただくことができます。

来年度に向けてのスケジュール
AICHI SCIENCE FESTIVAL 2012

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークの平成 24 年度活動

ネットワークの平成 24 年度活動の概略を、あいちサイエンスフェスティバル 2012 概略チラシの形で 2012 年 2 月 27 日にウェブ上で発表しました。今年は「国際航空宇宙展 JAPAN AEROSPACE2012 と連携」して実施します。また、5 月にはプレイベントとして「国際植物の日＊」連携月間を開催します。その他のくわしい活動内容は、決まりしだい、ウェブ、メールマガジン、プレスリリースなどで発表していきます。



＊国際植物の日：

欧州植物科学機構（European Plant Science Organization; EPSO）が「世界のみんなで植物のたいせつさを考える日」として 5 月 18 日を制定した。2012 年が初の試みとなり、日本国内コーディネーターを中心としてさまざまな植物関連イベントの開催が促されている。
http://www.plantday12.eu/japan.htm

＊国際航空宇宙展 JAPAN AEROSPACE 2012（JA2012）：

2012 年 10 月 9 日（火）から 14 日（日）を会期に、ポートメッセなごやと中部国際空港セントレアで行われる航空宇宙産業の見本市。1966 年から続く日本のナショナル航空ショーでもある。近年は見本市としてイベントホールでのみの開催が続いていたが、今回は 29 年ぶりの飛行場開催となるため展示飛行の充実に期待が高まる。あいちサイエンスフェスティバルは 2011 年スタート時より社団法人日本航空宇宙工業会の後援を得ており、JA2012 パートナーシップ事業として取り組んでいる。
http://www.japanaerospace.jp/

あいちサイエンスコミュニケーション・セミナー

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークでは、2012年に「あいちサイエンスコミュニケーション・セミナー」をテスト開講する予定です。サイエンストーク（サイエンスカフェ活動）を実践していくための入門レクチャーなどを開催していきます。

このコースで、サイエンス・コミュニケーションのエッセンスを学んでください。ここでサイエンスを議論し、サイエンスで交流するする仲間を見つけてください。そして、一緒にサイエンストーク活動を実践していく仲間になりましょう。



ネットワークの特徴を生かしたセミナーを計画中

あいちサイエンスコミュニケーション・サマースクール

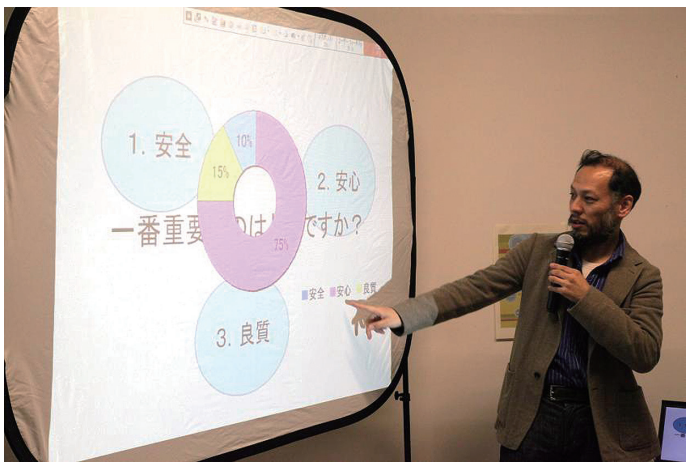


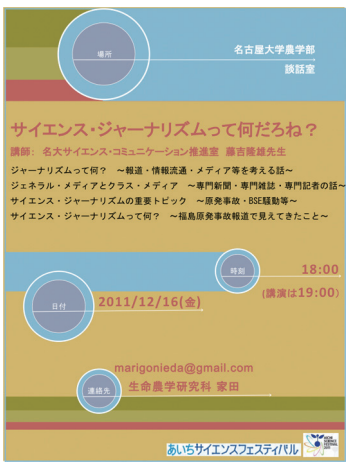
あいちサイエンスコミュニケーション・セミナーは、2011 年 8 月の特別プログラムからスタート。日本では取り組みが進んでいないサイエンスイラストレーションを愛知県に紹介しました。2011 年にサイエンスイラストレーションの修士課程（Art as Applied to Medicine 専攻）が創設 100 周年を迎えたジョンズホプキンス大学医学部より David Rini 准教授を迎え 3 日間の入門コースを開講。修士課程で最初に取り組むオブザベーション・ドローイングに、21 名の受講生が取り組みました。

北米では 5 つの大学院にサイエンスイラストレーションの修士課程が設置。教育カリキュラムが標準化されており、卒業生を中心としたサイエンスイラストレーター協会も結成されており、職業として認知されています

サイエンストークをやってみる会

2011 年 12 月から「サイエンストークをやってみる会」という試みが始まっています。これは、あいちサイエンスフェスティバル 2011 会期中の平日毎夜、名古屋市栄地区で繰り広げられた「さかえサイエンストーク」（P7 〜 10 参照）がきっかけで結成されたサークルです。サイエンストークに一般参加したみなさんからの「自分たちでもサイエンストーク活動をやってみたい」との声で始まったもので、2011 年 12 月に「あいちサイエンストーク」を自主的に開催しました。





サイエンストークをやってみる会の初めての活動は、「サイエンスジャーナリズムってなんだろね？」と題した「あいちサイエンストーク」を名古屋大学内で開催。

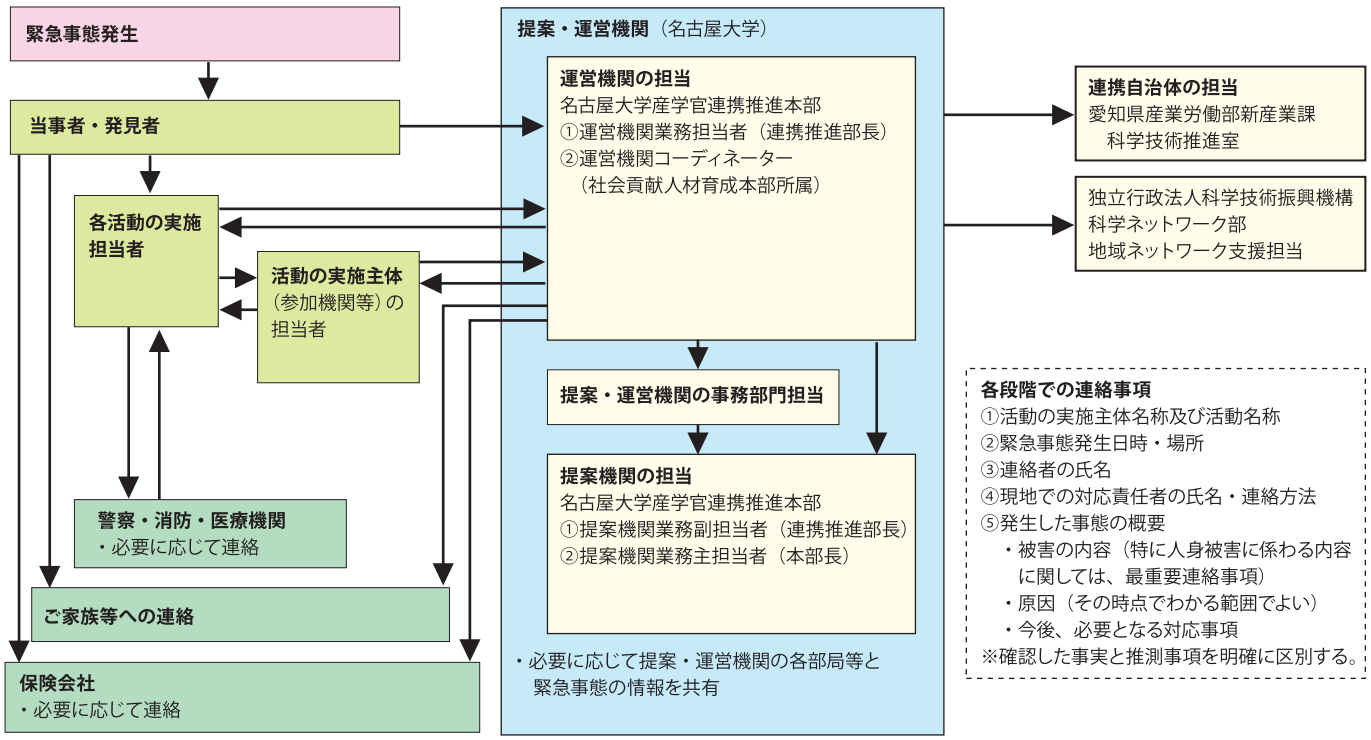
収支報告・緊急連絡通報体制

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク
独立行政法人科学技術振興機構（ＪＳＴ）
平成 23 年度科学コミュニケーション連携推進事業
「地域ネットワーク支援」
あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークの構築

平成 23 年度決算案

区　分	項　目	種　別	予算額（円）	決算額（円）	備　考
支　出	工具器具備品費		2,006,782	2,006,782	電子投票機システム等
	業務実施費	消耗品費	255,691	560,156	
		国内旅費	816,020	614,120	
		諸謝金	384,296	390,960	
		印刷製本費	2,320,600	1,634,700	
		雑役務費	4,023,103	4,425,913	
		借損料	830,500	1,118,550	
		通信運搬料	186,820	63,550	
		会議開催費	6,663	8,120	
		消費税相当額	0	29,624	
		計	8,823,693	8,845,693	
	一般管理費		1,085,247	1,085,247	
	合計		11,915,722	11,937,722	
収　入	JST 支援費	人件費相当額	6,000,000	6,000,000	初年度はスタートアップ費用として使用
		業務実施費相当額	4,830,475	4,830,475	
		一般管理費相当額	1,085,247	1,085,247	
	その他		0	0	
	合計		11,915,722	11,915,722	

緊急連絡通報体制図（平成 23 年6月1日現在）



2011 年度は、この連絡体制によりクレームへの対処を実施した。1 月 11 日に運営機関業務担当者に対してクレームの申し入れがあり、すぐに名古屋大学の法務担当理事、同法務室、愛知県、科学技術振興機構（ＪＳＴ）と情報・見解を共有した。そののち、2 月のＪＳＴ中間ヒアリング、外部評価委員会、運営委員会に報告している。3 月 6 日に千種警察署で見解を得たのち、3 月 7 日の実行委員会において関係機関すべてと情報・見解を共有した。当該クレームは特に問題ではないとネットワークで判断している。

謝辞・ネットワーク委員会日程

愛知県ならではサイエンス・コミュニケーション活動を

2011年秋、愛知県で待望の地域科学祭をスタートできました。愛知県内11機関の賛同を得て「あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク」が形成できたのがきっかけです。キックオフにご尽力いただきました関係者のみなさまに深く御礼を申し上げます。また、合計42もの団体からフェスティバル期間中に121のサイエンスイベント参加企画を登録いただき、のべ11万人を超える愛知県内外の方々に参加いただきました。当初の予想を大きく上回る方々に興味を持っていただき大変うれしく思っております。

愛知県内には、49を数える4年制大学をはじめとして、多くの研究機関、自動車産業や航空宇宙産業などの科学技術基盤企業が集積しています。その愛知県で、このような取り組みが今までなかったのは不思議なくらいです。これから、愛知県ならではのサイエンス・コミュニケーション活動を目指し連携を進めます。「あいちサイエンスフェスティバル」を中心として、小さなサークルやNPOなどから、研究者自身や企業までもがサイエンス・コミュニケーション活動に参加しやすい仕組みづくりを目指します。これからの活動にもご協力をよろしくお願い申し上げます。

あいちサイエンスフェスティバル運営責任者
あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク（JST平成23年度科学コミュニケーション連携推進事業「地域ネットワーク支援」）提案機関業務副担当者・運営機関業務担当者
名古屋大学 産学官連携推進本部連携推進部長・教授　**武田　穣**

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク実行委員会



第3回実行委員会の出席委員と陪席出席者

2011年7月27日：第1回実行委員会（於：名古屋大学）
2011年8月25日：第1回運営委員会（於：名古屋大学）
2011年9月21日：第2回運営委員会（於：名古屋大学）荒天により中止
2011年11月6日：第3回運営委員会（於：名古屋大学）日程調整不調により中止
2011年12月8日：第4回運営委員会（於：名古屋大学）
2011年12月21日：第2回実行委員会（於：名古屋大学）
2012年1月25日：第5回運営委員会（於：名古屋大学）
2012年2月20日：外部評価委員会（於：NPO法人くらしとバイオプラザ21／東京）
2012年2月29日：第6回運営委員会（於：名古屋大学）
2012年3月7日：第3回実行委員会（於：名古屋大学）

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク

独立行政法人科学技術振興機構（ＪＳＴ）平成 23 年度科学コミュニケーション連携推進事業
「地域ネットワーク支援」
あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークの構築

実行委員	宮田隆司	国立大学法人名古屋大学	理事・副総長 産学官連携推進本部長・社会貢献人材育成本部長	提案機関業務主担当者 / 委員
実行委員 / 運営委員	武田穣	国立大学法人名古屋大学	産学官連携推進本部 連携推進部長 社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センター長・教授	提案機関業務副担当者 / 委員・運営機関業務担当者
実行委員	阿知波智司	愛知県	産業労働部 新産業課 科学技術推進室 室長補佐	連携自治体委員
実行委員 / 運営委員	肆矢勝弘	愛知県	産業労働部 新産業課 科学技術推進室	連携自治体担当者 / 委員
実行委員 / 運営委員	川勝博	学校法人名城大学	総合数理教育センター長・教授	参加機関担当者 / 委員
実行委員	宮田譲	国立大学法人豊橋技術科学大学	学長補佐 工学部 建築・都市システム学系 教授	参加機関委員
実行委員	鈴木賢一	公立大学法人名古屋市立大学	学長補佐・教授	参加機関委員
実行委員	尾坂知江子	名古屋市科学館	学芸課学芸係・主任学芸員	参加機関担当者 / 委員
実行委員	黒邉雅実	名古屋市 東山総合公園	東山動物園 教育普及主幹	参加機関担当者 / 委員
実行委員	中村成利	名古屋市 東山総合公園	東山植物園 指導園芸係長	参加機関担当者 / 委員
実行委員	山中敦子	蒲郡市生命の海科学館	学芸員	参加機関担当者 / 委員
実行委員	長谷川道明	豊橋市自然史博物館	学芸専門員	参加機関担当者 / 委員
実行委員	広野透	トヨタテクノミュージアム産業技術記念館	自動車グループ長	参加機関担当者 / 委員
実行委員	高野智	財団法人日本モンキーセンター	附属博物館世界サル類動物園・主任学芸員	参加機関担当者 / 委員
実行委員 / 運営委員	藤吉隆雄	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 特任助教	運営機関コーディネーター / 委員
実行委員 / 運営委員	戸次真一郎	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 特任助教（～ 2012.01） リサーチ・アドミニストレーション室　リサーチ・アドミニストレーター（2012.02 ～）	運営機関委員
	三輪照彦	国立大学法人豊橋技術科学大学	総務課地域連携係	参加機関担当者
	辻顕暢	公立大学法人名古屋市立大学	事務局 学術課	参加機関担当者
	富田博明	国立大学法人名古屋大学	研究協力部社会連携課長	運営機関経理責任者
	片岡憲治	国立大学法人名古屋大学	研究協力部社会連携課社会連携掛長・専門員	運営機関経理担当者
	赤松芳和	国立大学法人名古屋大学	研究協力部社会連携課社会連携掛（～ 2011.09）	運営機関事務担当者
	相田暁彦	国立大学法人名古屋大学	研究協力部社会連携課社会連携掛（2011.10 ～）	運営機関事務担当者
事務局機能支援	市原俊	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 研究員	運営機関業務参加者
事務局機能支援	大住克史	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 研究員（～ 2012.02） リサーチ・アドミニストレーション室　リサーチ・アドミニストレーター（2012.03 ～）	運営機関業務参加者
事務局機能支援	大矢恵	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 研究員	運営機関業務参加者
事務局機能支援	河本さつき	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 研究員	運営機関業務参加者
事務局機能支援	竹内あかり	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 研究員	運営機関業務参加者
事務局機能支援	古田央哲	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 研究員	運営機関業務参加者
事務局機能支援	宇治原妃美子	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 技術補佐員	運営機関業務参加者
事務局機能準備支援	寿桜子	国立大学法人名古屋大学	社会貢献人材育成本部 研究員（～ 2011.03）	

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク外部評価委員会

外部評価委員	高田邦昭	国立大学法人群馬大学	学長	
外部評価委員	福水健文	日本アルコール販売株式会社	顧問	（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構・前副理事長）
外部評価委員	縣秀彦	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台	天文情報センター普及室長・准教授	（第 3 回東京国際科学フェスティバル実行委員長）
外部評価委員	佐々義子	ＮＰＯ法人くらしとバイオプラザ２１	主席研究員	

あいちサイエンスフェスティバル 2011 実施報告書

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク平成 23 年度活動報告

発行：2012 年 3 月 14 日

発行責任者	武田穣	国立大学法人名古屋大学
編集	藤吉隆雄	国立大学法人名古屋大学
編集	大住克史	国立大学法人名古屋大学
デザイン・ＤＴＰ	松場宏忠	MTB Design
印刷		ニッコアイエム株式会社